

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動・環境と栄養	3	後期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	運動（身体活動）に必要な栄養摂取の在り方や、運動時に体内で起きている栄養代謝の変化とそのメカニズムを学び、身体活動を活発にすることが、結果として我々の疾病予防や健康維持・増進にいかに関与するかを理解する。また、心身を取り巻く、ストレス、生活リズム、高温・低温、高圧・低圧及び無重力環境などの環境因子が身体へどのように影響を及ぼすか、その栄養とのかかわりについても学習する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	教育目標の達成度は、主にマークシートによる選択問題と記述式の問題を併用した試験により判定した。選択問題の出題レベルは、管理栄養士国家試験レベルの問題とした。本試験の合格者は69名中64名で不合格者は5名（うち欠席1名、休学1名を含む）であった。本試験の平均点は72.7±11.5点で、昨年に比べ平均点が約4点上昇した。成績の内訳は、4名が秀（90点以上）、16名が優（80点～89点）、18名が良（70点～79点）、26名が可（60点～69点）であった。再試験はコロナウイルス感染予防のためレポートに変更になったが、再試験の未登録者および休学者を除く全員(3名)が合格した。昨年と試験問題が異なるので単純には比較できないが、全体的に成績優良者が増加している傾向があり、知識理解、思考判断に関する目標はほぼ達成されたと考えられる。アンケートの到達度自己評価では、昨年に比べると「わりにそうだと思う」以上の高評価が増えている反面、数は少ないが昨年は見られなかった「少しそうでないと思う」以下のネガティブな評価も散見される。この科目は三人の教員が担当しているが、今年度は教員のスケジュール調整が難しく、各教員が担当する授業がひとまとまりの連続した授業ではなく、バラバラになったことも、到達度自己評価が低評価になったことに影響していると思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、応用栄養学分野の、運動および環境因子と栄養に関するトピックを抽出した科目である。卒業必修科目ではないが、管理栄養士国家試験の受験資格の取得、栄養教諭一種免許の取得に必須である。学生の講義に対する姿勢や、学習到達度自己評価も全体的には昨年より肯定的な意見が多いことから、内容は妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のすべての項目において「まあまあそうだと思う」以上の肯定的意見が98%以上であり、平均値も昨年よりさらに各項目で0.1～0.2ポイント上がっていた。栄養学科全体の平均値においても、各項目で0.1～0.2ポイント上がっていた。本科目は3年次開講科目であることから、より実践的で身近な内容を多く取り入れることで、能動的な学習活動に結び付けていきたい。複数の教員によるオムニバス授業で、なおかつ、各教員の担当授業がまとまった日程ではなかったため、講義のつながりが分かりにくかったと思われるにも関わらず、担当教員への自由記述では、比較的好意的な意見が多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	知識理解度及び思考判断、大部分の学生が標準的レベル以上に達したものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。学習量の評価において、昨年同様、予習・復習を全く行わなかった学生が約7割もいたことから、意欲から行動に結びつくような動機づけ、予習・復習の課題提示などを考えていく必要がある。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。 本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、殆どの学生の受講動機は『必須科目である』との理由である。授業準備性については確認テストを配布しているにもかかわらず、十分とは言えず、受講後の復習も不足していた。栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であると考え。現在、確認テストの提出は自由としているが、学習時間確保のためには必須とすることも含めて再考し、事前事後学習に対し、より強化したいと考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は62.9(±13.7)点であり、昨年度66.7(±10.4)点よりもやや低い得点であった。また、本試験合格者は全体の71%であり、成績の平均値同様、昨年度(80%)よりも低かったことに加え、例年と同じく、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況には個人差が大きかったものと思われる。実際には、21名(30%)が標準的レベル(70%以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は5名(7%)であり、昨年の結果に比し、試験結果同様、減少した。本科目の講義および試験の内容については例年と比較して、特段変更した点はなかったものの、全体的に成績が低下していたことに対しては、早急に対応すべきと考える。本科目では2016年度より、確認テストを導入しているが、学生の評価は下がっている。現在、確認テストの提出は学生の自発的学習に期待し、提出を義務付けしていなかったが、成績評価が低下していることを鑑み、確認テストの提出を義務付ける等、対策を検討したいと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、全ての学生が『参考になった』と回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においてもほとんどの学生が『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものとするが、次年度以降、より一層の専門的知識および技術の修得を目指す所存である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目では板書での記録としているため、90%以上の学生が『自分なりのノートを作成した』との回答であった。ノートを作成することにより、講義内容の整理ができ、かつ、理解も深まるものと考えられ、板書での記録は今後も続けていきたいと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。今年度に引き続き、次年度以降も確認テストの実施し、学生の的確な知識の定着に加え、その理解度を量ることにより、学生の気づきを促し、さらには、自発的学習へと繋げたいと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、これまでに修得した栄養教育の知識や技術を基礎として、栄養ケア計画の作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得することを目標としている。加えて、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることを目的としている。そのため、現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、第一線の臨床の場での管理栄養士の活動ならびにチーム医療での管理栄養士の役割をより深く理解する。また、将来、医療の場で活躍する場合に必要な知識を広く深く学ぶとともに、医療人としての心構えを培う。 本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、約90%の学生の受講動機は『必須科目である』であり、約30%は『資格取得に必要である』との理由であった。また、学修量の評価では、毎回課題提出を課したことに加え、臨地実習の事前事後課題等もあったことから、予復習時間の確保や記録作成は例年に比し、積極的に行われていた。しかしながら、自発的学習に取り組んだ学生は約30%程度と少なかった。このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は73.4(±6.9)、本試験合格者は全体の97%であった。また、2018年度以降、試験、事前・事後学習のためのレポートおよび授業貢献度として、講義内での発言、講師からの質問に対する回答等、講義に対する積極的参加について評価することとした。そのため、授業の質評価として、『評価基準』『学習の範囲や課題』についてはいずれもほとんどの学生が明らかとの回答であった。また、本科目を受講するに当たり、事前・事後の課題が課せられていたことも一因と思われるが、予復習時間を確保や授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。これらのことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、ほとんどの学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことにより、管理栄養士に必要な栄養ケアの知識やスキルを深めることを目標に掲げている。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、全学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においても、ほとんどの学生が『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。後学期終了後、本科目履修学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性に対する気づきにもなったものと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。本科目の特徴は、現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことであり、3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結していることにある。学生は本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、約75%の学生が標準的レベル以上を達成した。また、学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、講義内容等についての課題はないものとする。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	中村 貴志

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
介護概論	3	後期	選択	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今回の受講動機をみると、「必修科目である(76.5%)」と「資格取得に必要である(32.4%)」が高く、一方「関心のある内容である(2.9%)」は低い値であった。昨年度とほぼ同じ傾向であるため、できるだけ具体的な事例、新聞記事、ビデオ教材を用いることで、授業に対する関心を持てるように引き続き改善していきたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績では9割以上の受講学生が80点以上であり、介護の基本的な考え方や介護現場の課題は理解できたものと判断した。学生による授業評価においては、各項目の平均点はほぼ3.5であった。昨年度より平均得点はわずかに上昇しているものの、傾向はほぼ同様で、各項目の得点間にバラつきはなかった。今回の目標達成状況の改善が「意欲関心」の向上につながるように、さらに授業の工夫を行いたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業への「意欲関心」の低さに苦慮する面があったが、学生は一定の成績をおさめていること、到達度自己評価も全般的に高かったことから、昨年と同様に内容的は妥当であったと判断した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、昨年度と同様の傾向だった。講義系科目で、授業回数は1単位分の8回と限界があるが、引き続き可能な範囲で、学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、「予復習時間」や「図書館利用」がかなり少なかった。この理由として、昨年と同様に「授業への動機づけが低い」ことがあげられる。授業の中でも、学生が図書館やネットを利用して調べ学習を行う時間を設けるなど、引き続き学生の主体的な取組みを促したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「知識理解」と「思考判断」については、概ね達成できたものと判断している。今後も、「意欲関心」を高めるために、可能な範囲で学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、自由記述の中には授業における動画活用の有効性を示す意見もみられることから、今後も積極的に用いたい。さらに、介護と「栄養」や「管理栄養士の働き」と関連づけて課題を呈示するなど、図書館などにおける主体的な学びを促したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学実習	3	後期	必修	はい	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学実習は、講義の応用栄養学Ⅰ、Ⅱの実習科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が96.8%であることは当然の回答であり、「関心のある内容である」が4.8%と低いことに関しては、昨年度同様、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ（2年後期、3年前期）の講義が、学生にとっては関心を引き付けるような内容でなかったことや、本実習科目を応用栄養学の実習科目であることの理解につなげることが出来なかったことが考えられるため、講義における応用栄養学の内容に関して、次に続く実習に結び付けながら学生のモチベーションを保ちつつ、本実習に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。 ②昨年までと同様、この実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養補給法のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養学上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えている。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、興味を抱くことが出来たと考えられる意見が挙げられており、今後も試行錯誤しながら実習内容の検討を続けていく。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)の一部に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は69名の受講生中、A(秀)が8.6%と低かった、B(優)が25%で、C(良)は42%と高かった、D(可)が15.9%で、不可の学生は8.7%であった。今年度もA(秀)やB(優)の学生の割合が低く、昨年と同程度の知識・理解のレベルであった。また、DP3(意欲関心)、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、課題への取り組みや提出物、調理技術等で行った。受講生殆どが標準的レベルに達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるものの、受講生の多くに、実習受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断、意欲関心そして技能・表現、態度全てにおいて自己評価が高い。この実習への関心の高さは、試験結果や、課題内容、自己評価で判断することが出来た。また学習量の評価では、約半数の学生が予習および復習を行っていた。このことは課題の提出が義務であったからという理由も考えられるが、シラバスにおいて予習・復習をする具体的な時間を記載していたことも学生たちの自学につながったと考える。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生も多かった、今後も図書館の利用をすすめていく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また座学の応用栄養学の実習科目でもある。このことから、受講動機の「必修科目である」が96.8%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約半数の学生が予習、復習をしてきていた。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は36%であった。シラバスを参考にした学生の29%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、この割合も昨年度と同程度であった。今後も実習初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の実習の進め方、課題提出や自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定であるが、学生の傾向を捉えながらシラバスをもっと活用していくように促す必要がある。予習復習等自己学習に関しても、課題以外の学習をも取り組むことが出来るように、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、座学の応用栄養学の実習科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも実習時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、病態、食事療法について理解し、生活習慣の改善や傷病者に対する食事療法を支援するための栄養カウンセリング技法の獲得、個人および集団に対して適切な栄養教育ができるようになることを目的としている。また、グループ学習を通して多職種協働を理解し、コミュニケーションスキルを身に付けることを目標に掲げている。 本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であるという位置づけであるため、多くの学生の受講動機は、「必修科目である」「資格取得に必要である」との理由である。開講時の「学修準備性」については、授業の最初にアンケートを行っていないため学生の準備性の事実を把握できていない。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、ほぼ全員が標準的レベルに達しており、不合格者は0名であった。成績評価は、課題提出、ロールプレイ、発表および発表に関する取り組みにより行った。ロールプレイおよび発表は、評価基準を示し学生同士による評価ならびにフィードバックを実施した。標準的レベルに達していないものは、特に発表に対する取り組み方に課題がみられたため、授業オリエンテーションや毎授業で学習への意識が高められるように促していきたい。 学習到達度の自己評価においては、どの項目においても98%以上が「そうだと思う」と回答しているため、教育目標は概ね達成されたと考えられる。本科目では、栄養教育のための教材作成で情報の収集が必要である。そこで、図書館利用の項目から情報収集の方法について確認すると、インターネットを利用が28.9%、図書館での図書・雑誌の利用が12.5%、学術データベースの利用は10%であった。インターネットによる情報収集に頼っている学生が多いため、根拠のある情報を収集するためにも、図書や雑誌の利用、また学術データベースを利用する学生を増やすことも課題であると考ええる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「専門分野」に位置し、「臨地実習」へとつながる科目である。栄養士資格取得、管理栄養士国家試験受験資格に必須となっている。栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力および個人栄養教育、集団栄養教育で適切な栄養教育を実施する力を養う科目であるため、栄養士、管理栄養士を目指す学生にとって必ずしも身に付けておくべき分野である。また、学生の成績より一定の成績を収めているという結果から、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価は、DP5の「技能・表現」を重視し、課題や発表など授業内での取組により行った。学生の授業評価では、到達度自己評価においてDP5に該当する「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目は98%の学生が「そうだと思う」と答えており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	進め方で、特に気になる評価等はなく、特に改善点はありません。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全員が目標に達し、課題等に取り組むことができた。課題作成ではICT機器を積極的に活用し、新しいことに取り組めるように工夫した。学生のコメントでも「将来に役立つことが学べた」「デジタル機器への苦手意識が減った」や「楽しかった」とあり、授業内容、進行等、概ね問題ないとする。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に応じた適切な栄養管理を行うため、疾患の成因・病態ならびに治療法を把握し、身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法を理解することを目的としている。また、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、栄養アセスメント、栄養ケア計画の実際、食事療法の調整、栄養指導までの一連の流れについて、実習することにより、臨床栄養分野における管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。 本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、全学生の受講動機は『必須科目である』であった。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、約70%程度の学生が予習復習時間を確保していたが、自発的学習に取り組んだ学生は20%程度と少なかった。このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は69.3(±10.4)点であり、昨年度(72.2(±9.4)点)よりもやや低い得点であった。また、本試験合格者は全体の88%であり、昨年度とほぼ同程度(89%)であった。しかし、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況には個人差が大きかったものと思われる。実際には、34名(50%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は7名(10%)であり、理想的レベルを達成できた学生が著しく減少した(昨年度：26%)。達成度評価の指標は、筆記試験、実習試験、課題、発表等であり、学生の学修の成果が十分に反映されるよう配慮しており、例年に比し、大きく変更した点はなかったものの、全体的に成績が低下していたことに対しては、早急に対応すべきと考える。本科目を受講するに当たり、約70%程度の学生が予習復習時間を確保しており、授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、このことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、大多数の学生が専門的知識および技術の修得に対し、達成できたと回答していた。本科目は学外実習(臨地実習Ⅱ)と連動している内容であることから、例年、学生に対し、厳しく指導していたが、今年度、その指導方法に対し、指摘があった。このことについては、真摯に受け止め、学生に対する指導については、あくまでも実習内容のみとして学生との関わりの方を見直し、今後の再発防止に努める。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においてもほとんどの学生が『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。後学期終了後、本科目履修学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性に対する気づきにもなったものと思われる。しかしながら、本科目が学外実習(臨地実習Ⅱ)と連動している内容であることから、例年、学生に対し、厳しく指導していたが、今年度、その指導方法に対し、指摘があった。このことについては、真摯に受け止め、学生に対する指導については、あくまでも実習内容のみとして学生との関わりを方を見直し、今後の再発防止に努める。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったものの、自由記述における指導方法に対する指摘があったことから、学生との関わりを方を見直し、次年度以降、同様のことが生じることのないよう、配慮したいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。さらに、本科目の内容は3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結しており、学生は本科目の学修準備性として、予習復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、半数以上の学生が標準的レベル以上を達成した。また、学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。しかし、自由記述において、学生への指導方法に対し、指摘があった。このことについては、真摯に受け止め、学生に対する指導はあくまでも実習内容のみとし、学生との関わりを方を見直し、今後の再発防止に努める。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	田路 千尋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆栄養学実習	3	後期	必修	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講の動機は、「必須科目である」100.0%、「資格取得に必要である」15.6%が大半を占める本科目は、資格取得における必須科目である。「関心がある内容である」の割合が低く、今後の課題である。 ②テーマごとに課題を提示し、グループ演習を実施した。 ③「発表が多くあり、話す力、コミュニケーション力、人前で話す力が身についた」との意見では、今後も資格取得後の実践力習得に向けた更なる検討をしていきたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績は全員が標準レベルに達した。 目標別にみると、知識理解に関しては、95%、思考判断に関する問題は94%であった。 学生による授業評価に関しては、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等」の項目の回答もほぼ全員から得られており、目標は概ね達成できたと考える。 「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低く、課題を出すなど次年度にむけて検討したい。そのことにより、図書館等を利用割合も増加することを期待する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、必須専門科目である。国家試験に直接関わる内容であるという意識喚起を目的として、国家試験において出題頻度が高い用語や知識についてはその旨を強調するような工夫をし、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、授業の予復習時間が想定より少なかったことは、反省点である。次年度にむけては、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、課題を出し、検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、「何が重要な分からなかった」というものがあった。これは今後の課題として取り入れていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	必須科目である本科目は、学生による授業評価に関し、自分なりの目標を達成し、知識を確認、修正したり、新たに得ることができ、自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等の回答もほぼ全員から得られており、教育目標は概ね達成できたと考える。 次年度に向けての検討項目としては、「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低いことから、毎回テーマごとのねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、予習復習課題を提示するようにすることを加えていきたい。 また、学年により意欲的に取り組む傾向に違いがあると考えため、その学年に合った授業展開を検討していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①基礎栄養・応用栄養・臨床栄養の中から自分の興味のあるテーマの一つを選び、それについて自分の力で文献を調査・検討し、自分なりの見解をまとめてゼミで発表し、最終的にパワーポイントの発表原稿にまとめるという形式で実施した。 ②今年の卒業ゼミの学生は、授業アンケートの受講動機で、「関心のある内容である」と回答したのが6人のうち4人、「単位数確保のため」が4人、「資格取得に必要」が2人であった。今年のゼミ生は、例年に比べて、最初から担当教員が示した卒業ゼミの方針に興味・関心を持って参加した学生が多かったようだ。また、例年、レポートの提出が遅くなり、国家試験の勉強に差し支える心配をする必要があったが、今年は、比較的早期にまとめ上げ期限内に提出する学生が多かった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①提出されたパワーポイントの発表原稿は、未完成な部分もあるが、自分なりに努力して作成されていた。 ②到達度の自己評価では、項目（4）「専門分野の課題を検討する力の習得」および項目（5）「専門分野の的確な判断力の習得」で3.8と高得点であった。特に、講義系の科目では十分に達成できにくい項目（8）「コミュニケーション力・表現力」などが比較的高得点(3.6)であったことは、卒業ゼミの利点だと思われる。 ③授業評価アンケートの「図書館の図書・雑誌の利用」の回答では、6人のうち4人が利用したと回答している。テーマに関する図書・文献の検索については、図書館主催の「文献検索の方法」や「論文の書き方」のセミナーを全員が受けるようにしているが、これがある程度有効に活用されたようである。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」の選択科目であるが、授業準備の項でも述べた通り、本科目は自分で選んだテーマについて、自分の力で文献を調査・検討し、最終的にパワーポイントの発表原稿およびワードの論文にまとめることが目標であるので、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。 以上より、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」のすべての項目において、1人を除いて全員が「まあまあそうだと思う」以上のの評価をしているので授業の目標はおおむね達成できたのではないかと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目・専門分野にあたる本科目の目標は、4年間学んできたことのまとめということである。自分で選んだテーマについて、これまで学んできた知識や自分で調べたことに基づいて、自分の力で発表論文を仕上げるという過程を経験することによって、概ねこの目標を達成できたのではないと思う。反省点として、今回のゼミ生の指導にあたって、学生の受け取り方によっては注意の仕方を考えるべきであったかもしれない。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①専門である「運動生理学」に関連した学生の興味関心事項をゼミのテーマに取り上げ、学生の実動力を高めるよう務めた。本年度のテーマは「アスリートの栄養状態」の調査をテーマとした。学生の準備性は過去の運動部経験のみで、確固たる運動に関する知識は殆ど無い状態で始まった。しかし、各人の経験を考察に生かしながら進み、深く研究できるようになったと思われた。 ②本研究室の運動生物学研究に栄養学の新たなカテゴリーが加わり、これまでのテーマの方向性が変わったことを印象づけた。 ③研究ノートを作成させ、毎週の研究学習から調べたことなどを確認し助言し、学習意欲を確認しながら進めた。 ④ゼミでは、就職試験時の面接対策を年頭に受講するものが多いが、その主眼を研究調査の興味から受講させるような魅力を持たせるように務めたが、そのことを今後も続けたい。そのためのゼミ紹介の検討をしたいと思う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受験者6名(アンケート回答6名)の中で、単位修得が目的3名、興味関心での受講者1名であった。 実験、解析、結果の考察等、一連の作業を首尾良く行ったことは評価される。また自己達成度では学生自信の栄養学専門分の参考になったこと、職業選択の上で参考になったこと、研究の達成感を多少なりとも感じていることは評価できる。 実験測定の参加状況、参加態度、研究ノートの作成状況、実験の手法の定着性、解析の緻密性、結果に対する理解度や考察の広がりを経験の根拠とした。 学生による授業評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がない。これは、思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて思考判断の目標を明確に伝えるよう工夫するようにしたい。 なお、国家試験の受験と卒業研究が重なることはどちらに対しても時間的干渉が避けられない。大学生の卒業研究の意義の重要性を鑑み、カリキュラム上で開講期間の工夫を検討して頂きたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本運動生理学研究室の専門と栄養学科生の特徴を融合した研究テーマを示していた。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高かった。昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、その領域の成績は上昇したことからも、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。 ゼミの内容はその研究室の特性から、受講生が選ぶものであるが、大学生が卒業研究をしなくても良いというものではない。しかしその選択が国家試験との兼ね合いで、半数以下の学生しか選択しておらず、卒業研究に至っては1名と聞いている。他大学では必修であったり、就職の面接での問項目であるにも関わらず選択されないのは非常に矛盾を抱えた開講状況と言える。今後の制度的発展を期待したい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゼミ生の理解度に応じて進度を変えた。ゼミの場合は個人の進度が明瞭に感じ取られるため、このような進め方も有効と感じた。しかし、学習量は増えたとは示されなかったが、図書館等の利用を積極的に行ったので、学生が自覚できるような学習状態の提示をしていくことが必要かと考える。次年度への課題とする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本授業によって、自宅での作業、予習復習を行ったり、図書館を利用したり、積極性を感じられるような学習態度がみられたことは評価できる点である。しかし、卒業必修科目ではないことから、研究に注ぐ時間は積極的といえない。ただ、運動生理学とはどのような者かをの本流を伝えられたと考える。 ところで、ゼミ選択が、本学栄養学科の学生は過半数以下となり、4年制の大学の卒業単位としてその意義を失いつつあると判断できる。ましてや卒業研究（卒論）を撮る学生が数名という状況では、大学の本質は卒論を軽視し、国家試験勉強に移行してしまっている。このような中での授業の評価はおのずと低くなると考える。科目、単位の意義、カリキュラム上の検討が必要と考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①卒業ゼミは、4年次の選択科目であり、学生が興味のあるテーマを選択する。受講動機は「関心のある内容である」83.3%であった。3年前から単位数確保だけを動機にゼミを履修してしまうと、活動していく中でゼミ活動への意欲が失せる可能性があり、結果としてゼミ全体のモチベーションの維持が難しくなったため、ゼミを履修前の説明時（面談時）に、より詳しい説明を行い、意志の確認をした、今後もそうしていく。またゼミでは、ゼミ活動以外に相談や国家試験対策等のサポートを行ってきた。今後も学生たちの大学生活でのサポートを継続していく。 ②ゼミでは、福祉学科が実施しているほほえみの会（低出生体重児とその保護者の会）で、福祉や看護の学生たちと協力して、栄養や食事のサポートだけでなく遊びのサポートも行ってきた。学生たちは、このほほえみの会の活動を行っていきなで、自然とチームで活動することの大切さを（3学科協働の精神）身につけることができていたと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(関心意欲)、DP4(態度)、DP5(技能表現)すべてにおいて、準備から実施にいたるまでのゼミの活動や提出物によって評価した。特にDP2および5についての学生たちの自己評価が高く、学生個々人がゼミ活動を実施していく中で、課題を検討する意欲や学びをふかめる意欲が芽生え、必要となる技術も身につき、さらにはコミュニケーション能力・表現力を高めることができたものとする。ゼミ活動が就職選択の参考になった「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」とすべての学生が回答しており、この回答からも学生が意欲をもってゼミ活動を行ってきたことが推察される。 ②ゼミ活動においてはシラバスの計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。よってシラバスを参考にはしていないという回答は、やむを得ない。今年度は、課題学習や自己学習のために図書館やインターネットの利用が少なかった。今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、4年次の選択科目である。本科目履修者の学習到達度から、選択教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上記4にも記載したが、ゼミ活動においてはシラバス計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。課題学習や自己学習のための図書館やインターネットの利用が低かったことに関して、今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。ゼミの活動時間は、3学科の協働の時間であり、栄養学科の学生個々人との時間をなかなか持つことが出来なかった。今後は、ゼミ活動以外にもゼミ生と接する機会を増やし、ゼミ活動、国家試験勉強、就職活動など様々な点で学生のサポートをしていきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、4年次の選択科目であり、学生が自ら希望するテーマ（教員）を選択していく。選択科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからは学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、ゼミ（授業）改善を行っていく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	田路 千尋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講の動機は、「関心のある内容である」88.9%、「単位を確保する」100.0%が大半を占める本科目は、資格取得における必須科目である。 ②卒業ゼミのテーマごとに、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ③本科目は、専門分野であるために学生の興味の有無が分かれると思われる。今後も学生の興味を引き付ける内容となるよう努めていきたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	2種類のテーマごとに学外でのゼミ活動を実施した。意欲的な活動と知識理解、思考判断に関する問題は90%以上であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、選択科目である。4回生から履修する科目のため、国家試験勉強と並行して卒業セミ活動を実施した。また、国家試験に直接関わる内容であるという意識喚起を目的として、国家試験において出題頻度が高い用語や知識についてはその旨を強調するような工夫をし、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、授業の予復習時間が想定より少なかったことは、反省点である。次年度にむけては、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、課題を出し、検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	選択科目である本科目は、学生による授業評価に関し、自分なりの目標を達成し、知識を確認、修正したり、新たに得ることができ、自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等の回答もほぼ全員から得られており、教育目標は概ね達成できたとする。 次年度に向けての検討項目としては、学年により意欲的に取り組む傾向に違いがあるとするため、その学年に合った授業展開を検討していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ライフステージ別の食教育を含めた料理教室の運営活動を行っているが、企画～準備～実施～評価～改善を通して、学生の自主性を重視して指導を行っている。また、障害者支援施設の給食部門と連携し、一般成人向けの昼食用弁当の企画・生産・販売を実施している。この取り組みは、給食施設管理栄養士および調理師との連携が必要であり、指導教員の担当科目の専門性にも合致した内容である。さらに、2019年度は『江崎グリコ』とのコラボ企画により、「SUNAO」（糖質OFFシリーズ）の販売促進を目的とした活用レシピを考案した。完成したレシピはリーフレットにし、『西南女学院大学コラボレシピ』としてハローデイ各店舗の菓子コーナー（SUNAOコーナー）にて配布された。この取組から、企業のマーケティングの視点や方向性を理解し、担当社員の方とディスカッションすることで、企画から商品化という過程を学ぶことにつながったと考える。毎年のことながら、履修学生の大半の受講動機は「関心のある科目である」であり、取り組み意欲の高さが窺われ、担当教員の指導方針との整合性が得られていたと考えられる。一方で、例年のことであるが、「単位数確保」を選択している学生もあり、このことから学生間に取り組みへの温度差があったことが確認できる。一方で、「先輩に勧められた」を選択した学生がおり、前年度のゼミ活動に関して、後輩に履修を勧めてもらえるような活動であったことが、明らかとなった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価から「知識の確認・修正」に関して、平均値4.5、中央値4.5の評価が得られており、昨年度よりも高評価となった（昨年度4.3、4.0）。また、「専門分野のさまざまな課題を検討する力（評価4.5;中央値4.5）」「コミュニケーション能力（評価4.5;中央値4.5）」が身に付いたと評価する者が多く、昨年同様に高い評価を得ることができた。また、「行動規範」等を学ぶことができたとし、「職業選択の参考になった」と評価された。実際に、本年度ゼミ生の多くは希望職種（病院栄養士、栄養教諭（福岡市）、大手食品企業営業など）への就職を果たしている。これらは、DPの目標に到達したとする十分な判断材料であると考ええる。いずれも、評価の平均は4.5を超える高い結果であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	4年間の学習内容を総合して取り組むのが卒業ゼミであると考えらる。また、本ゼミ活動は大学生生活で得た知識・技術を実践する活動内容であり、これを活用して学外の企業や施設との会議の際に提案を行わなくてはならない。これらの実践的な活動の成果が、到達度の自己評価の結果に表れていると考えられ、内容的に十分に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価から、特に「話し合う」「質疑応答」の機会が十分に確保できていたと評価された。多職種と協働で仕事を行っていく必要があるため、その訓練ができたのではないかと考える。また、「学生の参加する機会」に関しては平均値4.5、中央値5.0と非常に高い評価となった。本ゼミは、学生の完全自治によって運営する方針をとっている。指導教官はアドバイスをするとどめており、学生が主体的に考え、行動し、結果を得るという十分に経験することができたことが、今回の数値につながっているものと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本ゼミは、活動内容が多い上に、学生の自主性に重きを置いているため、時間外での話し合いや作業が多く求められる。2015・2016年度の総括として「履修学生が毎年入れ替わることを考えると、学生の資質によっては負担に感じる内容である可能性がある」と検討課題を示し、2017年度の活動では、ゼミ活動に関するオリエンテーションを行い、活動内容と時期、役割分担を詳細に確認する時間を設け、活動内容を十分理解したうえで参加できたと考える。2018年度は大学自体への出席率が低い学生への対応の難しさを課題に挙げたが、今年度は特に問題なく活動を進めることができた。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、4年間の集大成の科目である。ゼミのテーマについて調査・研究計画を立案し、計画に従って調査あるいは研究を実施することであり、将来、管理栄養士として直面する課題に対する解決方法を身につけることを目的としている。受講動機は、「関心のある内容である」と回答した学生が多く、「このゼミに入りたかったから」と明確な目的を持って受講した学生もみられた。昨年度の課題であった、「受講動機にばらつきがあること」への対応として、ゼミ選択時の説明でテーマについて詳細に説明することを挙げていた。今年度は、学生にテーマを詳細に説明したことから、テーマに関心のある学生が選択し、学習準備性も整っていたと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の最終成績は、「理想的レベル(80点以上)」に達し、到達度自己評価においてはすべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。学習量の評価では、予習復習や自発的学習に取り組み、主体的に学習していることが示された。また、各テーマに関する課題の取り組み状況や、ゼミ活動への積極的な態度が見られたため上記評価とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、4年間の集大成として位置づけられており、ゼミのテーマに取り組むことで専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。 本ゼミのテーマは、ライフステージに応じた食育に関連した内容であり、また公開講座において体験的に学習することで、管理栄養士に必要な実践的スキルや知識の修得に繋がったと考える。到達度自己評価においても、専門分野においての各項目に対して平均4.0以上と評価が高いことから、専門的知識、理解が深まったと推察される。このことから、内容的妥当性については問題ないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったと考えられる。しかし、様々なイベントが重なり、学生に負担が生じた部分があったことは課題である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、4年間の集大成として位置づけられており、ゼミのテーマに取り組むことで専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。本ゼミでは、受講動機や学修の準備性にばらつきがみられたものの、実際には積極的に課題に取り組む姿勢が見られ、到達度自己評価も全体的に高かったことから、内容的妥当性はないものの思われる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年間大学で学んできたことを活かしてもらうため、考える、提案する、改善するといったことを学生主体で行っていくことを大切にしました。 その為にはゼミ生と教員間でコミュニケーションをとることを心がけた
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	ゼミ活動の目標として「ササゲ豆粉を利用してパンやクッキーに活用するための配合割合や新たな食品レシピの創作」とし、概ね達成できた。パンやクッキーへ活用するための配合割合を設定し、レシピもいくつか組み立てることができた。しかしながら、「思考判断」「技能表現」では「やや達成された」と評価した。学生からの評価は平均値3.6であったが、学生自身が考え→行動するという点において、消極的な面もみられたため、このような評価とした					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① DP,CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は4年間で学び修得した、知識、技術、思考力、態度などを活かした活動であるため、内容的には妥当であるとする
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	まずはベースとなるレシピを完成させることに重点を置いた。いくつかの配合割合を作成し、試作→試食し、問題点を検討する。その問題点を解決するために、ディスカッションをおこない新たなレシピを作成するといったことを繰り返し行い、ササゲ豆を活用したクッキーとパンの配合割合を完成させた。また、それを応用したレシピを作成することができた。初めての取り組みであったが、学生も徐々に意見だしたり、話し合うという事が身についてきたと感じた
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度は学生のアンケート評価から、目標は概ね達成されたと考えている。しかしながら、学生自身が考え→行動するという点において、消極的な面も感じたため、来年度は学生の考えなどを引き出すことができるよう、学生と接していきたいと思う。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は、選択科目であり、できるだけ本人の希望するテーマに沿ってゼミを進めていった。 ②11名の希望者のテーマは、障害児を対象とした食育活動、高齢者施設を利用する高齢者の栄養調査などであった。そのため、対象者にあった対応や支援の方法について学べる活動とした。 ③食育活動では、食育テーマの決定、プレゼン方法、実習の準備や流れ、全体の総括などを、栄養相談では、高齢者の対応、栄養指導法、機器測定方法など学べることを目的とした。 ④本人の意思により、それぞれのゼミ活動に参加していたため、学生のペースにあわせた活動とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	ゼミ活動であったため、積極的にどのテーマにも参加し、活発に活動した学生は評価が高く、参加意欲の低い学生は低い結果となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」の選択科目であるが、自分で選んだテーマについて、自分の力で文献を調査・検討し、最終的にまとめることが目標であるため、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価の平均点数が3.5点であった。授業の質評価においては、平均点は、3.8点であった。活動は対象者のペースや日程に合わせた支援やボランティアであったため、積極的活動が控えられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目・専門分野にあたる本科目は、自分で調べ、自分で企画し、実行し、結果を出せることが、目標である。これまでの学習に加え、企画力や実行力、責任感や社会性なども問われ、自身の実力が試される科目である。積極的に活動に参加できたかを評価するため、ゼミ活動開始前後に、学生の知識、意識、意欲等の調査を行い達成度を数値化した。高齢者を対象とした栄養相談や障害児とその家族を対象とした食育活動は、社会人として管理栄養士として今後働く上で、良い経験となっていた。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅰ	4	通年	選択	いいえ	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、管理栄養士国家試験を受験する者を対象とした「管理栄養士必須科目」であり、授業の内容は、国家試験合格を目指して、類縁科目を総合的に理解・把握するよう設計されている。従って、受講動機が「資格取得に必要である」に大きく偏っていることは必然として理解できる。 ②一昨年度までは週に5コマ開講していたが、昨年度より、新カリキュラムのもと週2コマの開講となっている。 ③管理栄養士国家試験にとって極めて重要な科目であるが、週に2コマ程度の授業では国家試験対策としては到底不十分であるため、別途、国家試験対策の補講を管理栄養士演習Ⅱと併せて前期は週に7コマを、後期は週8コマを、さらに夏期と国試直前の春休みに全日補講を、教員のボランティアによって実施している。 ④本科目は、国家試験の「午前中の部」の大部分をカバーするものであり、8名の教員によるオムニバス形式の授業とし、全体の様式を統一して受講生が戸惑わないよう配慮しながら学習の便宜を図っている。 ⑤本年度は、登録した受講者82名中、80名が受講を完了し、80名全員が国家試験を受験した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の期末試験結果 ・昨年も今年も受講生は80名、本試は昨年は不合格者16名で今年は39名、全員、昨年・今年ともに再試で合格した。 ・本試の結果は、平均点68.1で、秀0名、優10名、良29名、可25名であった。 ②管理栄養士国家試験の自己採点結果と合格率 ・昨年の自己採点結果は、平均点は150.2点、今年は138.9点であった。 ・従って、国家試験の結果からみると、管理栄養士演習と同様、学力が大きく低下していた。 ・今回の合格率は91.3%（受験者80名について73名が合格）であり、全国の平均合格率92.4%をわずかに下回った。 ③これまでの国家試験合格状況について ・合格率は、第34回91.3%（92.4%）、第33回95.0%（95.5%）、第32回99.0%（95.8%）、第31回98.6%（92.4%）、第30回97.1%（85.1%）、第29回100%（95.4%）、であった。（）内は全国新卒の合格率を示す。例年に比べて、僅かに劣る程度であった。 ④「知識理解（DP-1）」および「思考判断（DP-2）」について					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は国家試験受験対策の科目であり、全員が国家試験に合格するためには、全員が標準以上の成績評価を得なければならない。学習の動機付けは容易であり、学生も、結果的に国家試験で合格率90%以上という良好な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から「知識理解」の達成度が高かったことと、これまで課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生評価は、例年、学生自身が「国家試験を怖れて」と「受験勉強の苦しさ」のはけ口になっている面が強く出ているが、学生がもっとも強く望んでいることは「管理栄養士の国家試験に合格する」ことであり、その要望には教員は十分に応えてきており、また、学生も十分にその目的を達成できている。今後とも、担当教員は力を合わせて、受験生が味わっている「受験勉強の苦しさ」の良き受け皿となって、受験生が目的を達成できるよう、うまく指導して行きたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①一昨年度から、4年生への進級時に国家試験受験資格を判定する制度を無くし受験資格を緩和しているが、今年度も例年と変わらない90%以上の合格率を維持することができた。 ②国家試験の結果が本科目の評価のすべてである。これまで試行錯誤しながら、さまざまな問題に対してそれぞれ工夫を施して対処してきた結果、担当教員の尽力が国家試験の結果に反映するようになった。 ③今年度の学生は異質な気質があり、意欲に欠け、不平不満を強く傾向が強くみられた。教員のボランティアによる補講の出席率が極めて悪く、教員側のモチベーションを維持することが難しかった。そこで、次年度は、国試対策のメンバーを大きく変えて、心機一転、新たな気持ちで新学年に向かい合いたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の『応用栄養学』『栄養教育論』『臨床栄養学』『公衆栄養学』『給食経営管理論』分野の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。 本科目は管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであることに加え、学生全員が『国家試験合格』を目標としていることから、多くの学生の受講動機が『必修科目である』との理由であるのは当然のことと思われる。また、カリキュラム改正に伴い、2018年度より、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱの週コマ数はそれぞれ1コマとなり、例年に比し、減少した。しかしながら、週2コマ程度の講義のみでは国家試験対策としては到底不十分であることから、別途、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ担当教員による国家試験対策の補講を実施している(前期：7コマ/週、後期：8コマ/週)。また、学習の準備性では、自らの国家試験合格のためということがあり、85%程度の学生において、予習復習時間は確保されていた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は64.0(±9.9)点であり、昨年度(74.4 (±8.5)点)よりも顕著に低下した。また、本試験合格者は全体の70%であり、昨年度(88%)と比較すると、本試験成績と同様、著しい低下がみられた。ただ、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況には個人差が大きく、その差は年々大きくなっていることが推察される。実際には本試験合格者は受講者80名中56名(70%)、『優：5名(6%)』『良：18名(23%)』『可：33名(41%)』であり、昨年度の標準的レベル28名(35%)、理想的レベル28名(35%)に比し、標準的かつ理想的レベルを達成できた学生が減少した。学生の到達度自己評価では、多くの学生が専門的知識および技術の修得ができており、また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)』と回答していた。このことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。その根拠の一つである管理栄養士国家試験合格状況(合格率)は『第34回(2019年度)：91.3%』『第33回(2018年度)：95.0%』『第32回(2017年度)：99.0%』『第31回(2016年度)：98.6%』『第30回(2015年度)：97.1%』であり、第34回は新卒合格率(92.4%)に達することができなかったものの、例年は高い合格率を維持している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、4年次に通年科目として開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、多くの学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、達成度評価については、学生全員が国家試験合格を目標としているのであれば、全員が標準的レベルを達成すべきではあるものの、実際は約40%であり、昨年度の70%よりも、著しく減少した。加えて、管理栄養士国家試験の合格率においても、新卒の平均合格率にも満たなかったことは、本科目の内容を精査し、内容的妥当性を検証すべきであると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)』と回答していたことから、予習復習の時間は確保されていたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の管理栄養士免許取得のための科目として位置づけられているものの、今年度の学生の成績は例年に比し、良好であったと言い難い。加えて、達成度自己評価では、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しているものの、2019年度管理栄養士国家試験の合格率は全国平均より低く、次年度以降、目標達成に向けて、講義内容等については精査する必要があると考ええる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成されなかった	どちらともいえない	どちらともいえない			やや達成されなかった
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○一昨年度は、秀優良は0%、可は69.2%、不可30.8%。 ○昨年度は秀9.1%、優9.1%、良45.5%、可27.3%、不可9.1%。 ○本年度は秀5.9%、優0%、良23.5%、可29.4%、不可41.2%。平均57.7点。SD=15.59。 ○栄養学科としては最低の結果であった一昨年度ほどではないが、昨年度からすると成績が低下している。一昨年度との比較でも不可が多く、学習集団内で授業の理解が不十分な大きな層が存在している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○一昨年度から向上した昨年度。それが完全に戻らないまでも大きく後退した印象だ。特に不可の割合が高く、最低限の知識の定着ができていない学生が多い。 ○特定の資料の理解と定着を指示した箇所であっても試験で解答できなかったことを考えると、授業中に指示を聞いていないのか、聞いていても復習につなげていないのか、復習しても理解や定着が難しかったのか、その違いによって不可の意味は変わってくるだろう。ただし、例年と同じようなレベルの授業で同じような学習者の質であることを考慮すれば、授業への意欲や参加態度という基本的な構えの差があったのかもしれない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○授業への取り組みの工夫が一昨年から昨年度の好結果を産んだとすれば、何故同様の取り組みを行った今年度が結果を残せなかったのか、現時点で明確に指摘することはできない。授業参加を促す仕組みを工夫することがひとつの方法であろう。次年度はGoogle Classroomなどを活用した細かな参加の工夫を行いたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③殊に新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。 ④学生の教職への学修意欲を喚起するために試験方法を完全に知識重視の穴埋め形式とした。範囲は『学習指導要領』の「総則」のみとした。それゆえに集中的学修を期待した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の成績29.81と惨憺たるものであった。なんと合格者は1人もいなかった。おそらく甘く考えていたのだろう。試験範囲は限定されているから、勉強すれば点は取れるものである。そのことを試験を機に理解した学生もいたので、再試験では17名中5名が合格したし、そのうち2名は80（評価は60）ポイントに達し、努力の跡が見られた。やればできるという自信は持ったと思う。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの結果に格別の特徴は見られない。「学生からの質問を受け付け、それに答える機会」を毎回設けていたにもかかわらず、3人が「少しそうでない」としていた。つまり、真剣にアンケートには答えていないということであろう。授業の理解もほとんどできていないとしか思えない成績であったにもかかわらず、ほとんどが「まあまあ」で「かなりそうだ」が2人もいたことも信頼性を欠いていることの証であろう。 しかし、試験の結果が、すべてを語っているので、よりわかりやすい授業と、疑問を受け入れる方法を考えたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	奮起すればできる学生がいるので教職の魅力を伝えていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、栄養教諭の使命と役割を理解し、児童生徒の食に関する実態を把握した上で、食に関する課題を解決するための意識・態度・姿勢を持つことを目的としている。さらに栄養教諭として学校教育に対する認識を深め、どのような食の指導を行うことが必要であるか考える力を身に付けることに重点をおいている。本科目の受講生は、栄養教諭を目指す学生であり、「資格取得に必要である」ことが受講理由である。本科目を受講するにあたり、栄養教諭に必要な資質として主体的に取り組む力が必要であるため、授業以外でも自ら学ぶ姿勢を身に付けるよう促していく必要がある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の受講生は7名であり、授業アンケート等で客観的に評価することは困難であるかもしれないが、到達度自己評価では、すべての項目で全員が、そうだと思うと答えており、目標は達成したと考えられる。 学習量の評価では、課題以外に学習に取り組んだ学生が1名であった。本科目を履修している学生は、将来、教員を目指す学生として主体的に学習に取り組む姿勢を身につける必要がある。そのため、主体的に学習を行うように促していくことが今後の課題である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、教職に関する科目の中に位置づけられており、栄養教諭の使命と役割、職務について理解し、栄養教諭としての意識・態度・姿勢を持つために重要な科目である。到達度自己評価において、「職業選択の参考になった」の項目では平均点が高く、栄養教諭の職務等が理解できたのではないかと考えられる。その他の項目に関しても、全員がそうだと思うと回答しており、内容的妥当性はあると評価できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、栄養教諭免許を取得するために必要な科目であり、栄養教諭の入り口にあたる科目である。受講生は7名であり、授業評価からの客観的な判断はできないかもしれないが、最終成績や提出課題より栄養教諭として必要な基礎的知識の形成は概ね達成できたと考えられる。しかし、栄養教諭としての態度や資質を身に付けるためには、主体的な学習を行うように促す必要があり、次年度からは課題の提示等、工夫・改善を行いたい。また、科目の特性上受講者数が少なく、授業評価アンケートでは客観的な意見を捉えにくいいため、適宜学生の意見を聞きながら改善に努めていきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、栄養教諭免許を取得するために必要な科目であり、栄養教諭の入り口にあたる科目である。受講生は12名であり、授業評価からの客観的な判断はできないかもしれないが、最終成績や提出課題より栄養教諭として必要な基礎的知識の形成は概ね達成できたと考えられる。しかし、栄養教諭としての態度や資質を身に付けるためには、主体的な学習を行うように促す必要があり、次年度からは課題の提示等、工夫・改善を行いたい。また、科目の特性上受講者数が少なく、授業評価アンケートでは客観的な意見を捉えにくいいため、適宜学生の意見を聞きながら改善に努めていきたいと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	大黒 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育相談（カウンセリングを含む。）	2	後期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたり、まずは学校カウンセリング論に関する基礎的な理論を学習させること、そして実際の現場では講義で学んだ理論をどのように活用できるかと言う点を重視して講義を行った。 学生は現場で必要とされる人材とはどのような人格及び、行動、態度で臨まなければならないのか、考える力を養えるように事例問題を多く提示した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館・インターネット利用」、「自	授業後のアンケート結果を見ると、授業内容について、またカウンセリングについて興味を示している学生が多くいた。ただ、講義の復習や予習など自己勉学に励む時間が少ないようにも感じた。事例問題については講義中に繰り返し示したように、問題を解決する際に「私の意見」を述べるのではなく、理論に沿った回答を述べるように伝えていたので、カウンセリング理論に則した回答がほとんどだった。したがって、この講義に対する思考や態度はある一定レベルは達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの自由記述の欄に、「学校現場で実際にどのようなことが起こっているのか、それを知ることが出来てよかった。」、と書いてあったように、本科目である内容的妥当性は評価できるものだと考えた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	基本的にパワーポイントを用いて講義を行うが、SNSや動画を用いて、より視覚や聴覚に訴えた講義が必要になるだろう。90分の講義時間の活用法が重要になってくる。座学は30分程度、30分がソーシャルメディアの活用、残り30分を思考判断が成長するような課題を提供する必要があると感じた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学校現場はその年々で課題が変化する。2020年度はコロナ禍において、オンライン授業による弊害（例えば子ども同士のコミュニケーションレスなど）が起きているので、そのような学生に対してどのように対処しなければならないのか、最新の研究を踏まえて講義する必要があるだろう

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでに履修した教職科目の理論や技術をもとに、教育現場における実践的な食の指導を体験するための栄養教育実習を受け、に当たって、心がまえや予備知識について理解することを目的としている。また、教育実習の成果が高まるように、食の指導にかかわる授業研究について模擬授業を通して実施している。実習後においては、実習中の反省、問題点の整理・分析を行い、今後の課題が明確に認識できるよう報告会を行い、栄養教育実習の学びを十分に高めることに重点を置いている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、受講生が12名のため客観的評価は困難であるが、最終成績、教育実習校からの評価、授業評価の結果より、教育目標は概ね達成されたと考えられる。また、学習量の評価では予習復習を十分に取り組んでいることから、到達度達成度の評価も高かったと推察される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「専門教育科目」の中の「教職に関する科目」に位置し、栄養教育実習の事前指導および事後指導のための科目である。事前指導では、教育実習の基本的な知識を身に付けること、事後指導では実習の修得内容から、今後の課題を明確にすることを目的としている。実習校からの評価や実習報告会を含め、総合的に判断し、内容的に妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講生が12名であったことから、理解度に合わせて丁寧に進めることができた。最終成績、実習校、受講生の達成度評価のいずれも高い評価であったため、本科目の教育目標は概ね達成できたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講生が12名であったことから、理解度に合わせて丁寧に進めることができた。最終成績、実習校、受講生の達成度評価のいずれも高い評価であったため、本科目の教育目標は概ね達成できたと考えられる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（栄養教諭）	4	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでの教職課程での学習と栄養教育実習を振り返りながら、栄養教諭としての使命感や、実践的技能と資質・能力の向上を目標とする。栄養教諭を取得するために必須となる科目であるため、受講動機は資格取得に必要であると全員が回答した。本科目では、将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことに重点をおいているため、開講時に各自の栄養教育実習の経験を踏まえ課題整理を行った。課題として挙げられた、指導力不足(板書、問いかけの方法など)、知識不足、表現力不足を解決するために、授業計画を行い実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、受講生が12名であり客観的な評価はできないが、成績と達成度自己評価より教育目標は概ね達成できたと考えられる。成績は、提出物、発表(模擬授業及びプレゼンテーション)により評価を行った。 学習量の評価では予習復習への取り組みは見られ、栄養教諭として自ら学ぶ姿勢が見られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の中の「教職に関する科目」に位置し、栄養教育実習を終えた後の教職科目の集大成となる科目である。そのため、栄養教育実習を振り返り各自の課題を見つけ、課題を解決し、栄養教諭として社会にでるための実践的技能と資質・能力の向上を高めることを目指している。学生の最終成績や到達度の自己評価から内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標から見ての内容的妥当性 本科目は、栄養教諭としての知識・技術の修得や、コミュニケーション能力や表現力を高めることを主な行動目標としている。各自の課題から、模擬授業や研究授業の見学など、学生が体験を通して学べるような授業とした。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目では、将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことを目標としているため、開講時に各自の課題整理を行った。課題として挙げられた、指導力不足(板書、問いかけの方法など)、知識不足、表現力不足を解決するために、模擬授業やプレゼンテーションを実施した。また、外部講師として現職の栄養教諭(中学校)を招き、講義後に交流の場を設けることや、小学校への研究授業の参加、教育現場との積極的な関わりを通して、栄養教諭の職務や意義と役割を再認識することに重点をおいて実施した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、栄養教諭を取得する学生にとって集大成となる科目である。教育者になることを自覚し、自己の課題を持って授業に取り組む姿勢が求められる。授業は、学生が主体的に学べるように演習や体験を多く取り入れた内容とした。また、学科横断的な取り組みとして、他学科の学生ともグループワークを経験し、それぞれの教育実習の経験からディスカッションを行うことで、他教職員との連携やコミュニケーション能力を培うことに繋がったと推測する。以上のことから、授業全体を通して教職科目の集大成として概ね目標は達成できたと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「学生の授業評価アンケート」（学科の全体44名）を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「単位数確保」が6.8%であり、「GPAをあげる」が2.3%であった。ほとんどがキリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は前期の復習を含めて受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を再度、最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、シラバスにより評価基準を明示した。しかし授業の質評価を見ると、<評価基準は明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「10、20、18」で98.0%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「1、0」で2.0%であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、理解力を助けるための具体的なメタファーや例えば、可能な場合には栄養学科と関係のあるものを用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績を見ると、平均は88.7点であり、分布的には、90点以上が62.7%、89～80点が33.3%で、理想的レベル（概ね80点以上）に達した受講者は96.0%であり、79～70点が2.0%、69～60点が0.0%で、標準レベル（概ね60点以上）のそれは2.0%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 学生の<知識><理解>に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順（以下同）にそれぞれ「7、17、23」と「7、16、25」で 95.9%と98.0%であり、否定的回答は「少し」「全く」の順に「1、0」「0、0」で2.0%と0.0%で、無回答がそれぞれ1名であった。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する<検討する力><判断する力>に関しては、肯定的回答は「4、15、25」と「4、13、28」で89.8%と91.8%であったのに対し、否定的回答は「4、1」と「3、1」で10.2%と8.2%となった。④ 専門分野でも<意欲>では肯定的回答は「4、11、30」で91.8%であり、否定的回答は「3、1」で8.2%であった。⑤ さらに専門分野の無回答1名のあった<技術>と<コミュニケーション、表現力>の習得では、肯定的回答はそれぞれ「3、12、29」「4、11、27」で89.8%と85.7%であったのに対し、否定的回答はそれぞれ「3、1」と「6、1」で8.2%と14.3%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「3、15、27」で91.8%であったのに対して否定的回答は「4、0」で8.2%であった。⑦ <職業選択の参考>では、肯定的回答は「4、10、29」で87.8%であったのに対し、否定的回答は「3、3」で12.2%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となり統合する総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、<知識><理解>ではそれぞれ2.0%と0.0%であった。専門分野の学習において<検討する力>と<判断する力>ではそれぞれ10.2%と8.2%であった。<意欲>では8.2%であった。<技術><コミュニケーション、表現力>習得では8.2%と14.3%であり、<倫理・規範>に関しては8.2%であった。 ②DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会人としての教養を身につけるための<知識><理解>ではそれぞれ2.0%と0.0%、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための<倫理・規範>は8.2%であった。課題を解決のための論理的思考・判断にかかる<検討する力><判断する力>はそれぞれ10.2%と8.2%、及び保健、医療、福祉への関心を持ち、健康増進等への貢献する<意欲>並びに、<技術>の習得という専門分野と、適切な関係を形成する<コミュニケーション、表現力>に関しての否定的回答は、8.2%と14.3%の間であった。③以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表見の分野、専門と技能表現の分野、いずれも80%以上であり、授業内容は妥当であると考ええる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表見の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考ええる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生からの担当教員へ意見は予復習につき、「何をしたらいいかわからなかった」という学生が1名あった。第1回目授業から教科書の予復習方法を説明したが、十分に浸透しなかった。②学習量の評価を見ると、<配布資料に記載>が39人、79.6%、<自分なりのノート>が2人、<記録しなかった>は8人で16.3%であった。<1回30分以上の予復習>6回も4,5回も0.0%で、2,3回が4.1%、1回が12.2%で、0回は81.6%であった。③授業の質評価を見ると、<評価基準は明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「10、20、18」で98.0%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「1、0」で2.0%であった。<理解しやすい>という項目では、「7、13、26」で93.9%であり、否定的回答の「少し」「全く」の順に「2、1」で6.1%であった。<参加の機会>では肯定的回答は「6、12、24」で85.7%あり、否定的回答は「6、1」で14.3%であった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答が「6、14、26」と93.9%であり、否定的回答が「2、1」で6.1%であった。④今後のこととして、学習量の改善が必要であり、予復習の方法と奨励につき工夫をする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①授業準備として、パワーポイントを利用し理解を容易にするとともに、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の必要性和具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。②総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。加えて、この科目は実学であって、学生の専門分野での<的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での統合的な判断力及び意欲の基盤を強くするものである。そこで、<授業の進め方とその向上について>に記載した改善策に取り組む工夫をする。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	はい	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探究していく姿勢をもたなければならない。本セミナーは、初年次セミナーⅠおよびⅡで構成されており、スタディ・スキルズを身につけ、大学での学びの質を高めることを目的とする。 初年次セミナー1では、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図る。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のICT活用法など、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指す。また、情報倫理に基づくメディア・リテラシーの習熟を図る。 授業動機は、必修であるが故に動機の特長は見出せない。また、学生の入学時の状況は、学修の準備性は期待できない。この科目は学習の準備方法を教え、準備性を高め、学習効率を高めるためのセミナーである。本講の受講後に格段の学修準備性が高まると考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は82点であり、標準的レベル(70点以上)に達した。本試験の難易度が低かったのではなく、全学生の修得意欲に個人差が無かったと考える。 これ以上は意味を持たないが、理想的レベル(80点以上)は38名(73%程度)、標準的レベル(70点以上)は52名(100%)であり、全受講生が標準的レベル以上を達成できた。 「自己達成度」は平均値が全項目で3.2～3.9の間(中央値3～4)にあり、「授業の質の評価」も3.7～4.3であった。 ただ、予習、復習の課題がないため授業以外の取り組みは79%(38名)が何もしていなかった。シラバスの情報を参考にしたもの48%(23名)、図書館を利用したもの75%(36名)と、利用者は過半数を超えていた。 本科目の内容は、大学の講義を受講する上で、管理栄養士国家試験のための学習を成就する上で極めて重要である。更には、自発的学習へ繋がり、定着することが重要である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は学習の動機づけが十分達成できており、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え る。 ② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲感心」ともに達成度は高かった。授業中のフィードバックも十分なされ、授業内容は妥当であ ったと考える。 以上から、内容的妥当性は問題ないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方 策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答を お示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価については、平均値が3.7～4.3あったことから、授業の進め方は良好でと考える。 しかし、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生がそれぞれ19%（9名）、58%（28 名）いた。また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生も86%(43名)と非常に多かった。 また、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「何をしていいかわからなかった」、「特にすること・課題がなかった」、「 「他で忙しかった」が多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大学での学びの質を本講で高めることが出来たという実感が、学生に評価されている。しかし定着し、実践できるようになり、研究や実 習、ゼミ、更には修飾語も活かせるよう体得出来ることが目標となるので、更なる充実した内容に進化したい。 本講の他の側面として、演習的なグループ作業や、アドバイザーとの協力的作業等を通して、「学生間の仲間づくり」、「学生間の信頼関 係」、「個性と役割分担」「教員との一体感」、「教員のふれあい」等等、様々な教育に貢献できる効果が得られ、これまでの講義ではえら れない「学生と学科教育」に重要な時間であったと考える。更に大学生の学びの質向上に役立つ内容の充実を図りたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者には、夏休み明けと後期末における体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、実体験した運動量と、自己の身体組成や健康度との関係が把握できるようにした。 ②各受講者は、自己の体格に合わせた最適運動量を算定し、各自にカロリーカウンターを貸し出し装着させ、毎時間の自己の運動量を記録し把握させ、運動意欲を喚起するようにした。 ③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめ、実習期間全体の変容と自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が、数量的に理解できるように努めた。 ④生涯スポーツとして多数の人が選択する可能性の高い種目を置き、職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを中心に導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質と理論的把握による種目の理解向上、ペア同士の個人的理解からはじめて、チームワーク形成のための目標と話し合いを積極的に促し進行させた。その結果、参加態度は、非常に積極的で、恒常的で、積極的授業態度に変容し、明るく助け合い声掛け飛び交うものとなったことから、準備性が影響したと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①12名が受講し、最終的な成績の平均値は83点で、再試対象は0名で履修放棄2名あった。全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは7名と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。11名(23%)が資格に必要と答え、関心有り11%と、目的は様々であった。最も多い理由は、興味関心有り（82%）と答えていた。 ②アンケートに答えた12名中、目標到達ができたと答えた学生は11名で、非常に様々な学習効果をもたらしたと考える。（知識の取得11名、理解思考力アップ11名、課題解力獲得11名、判断力獲得11名、意欲向上11名、技術獲得10名、コミュニケーション力11名、職業倫理行動規範学習11名、職業選択の参考10名） ③授業の質について、良好と言う回答が大多数であった。ほぼ質的に良い状況と考える。（評価基準明確11名、学習課題明確11名、分かりやすい説明11名、学生の意見交換発表の場あり11名、質疑応答の場あり11名） ④学習量では11名中、全く予習しなかった者8名、復習しなかった者8名、記録をしなかった者8名、授業以外の学習なし8名と、普段の生活での身体活動遂行には至っていないと思われる。 ⑤授業の情報利用に関して回答者11名中、シラバスを参考にしなかった者は8名、授業計画を立てなかった者6名、シラバスで受講計画した者5名中5名、教員の説明での受講は5名中5名で、半数がシラバスを参考にし、加えて教員の説明は重要と考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」における選択科目であるが、初年次の授業や教育活動、ミーティングなど、大学での活動に必須な、人間関係構築やコミュニケーション基礎、ストレス対処、健康づくりについて、考え会得する最適な場面といえる。また、管理栄養士として絶対的に必要なエネルギー代謝に関して、実体験をしながら理解する場として非常に有用である。学生は積極的で、一定の成績を収めていることから、学習の動機付けと内容の理解には効果があり妥当であったと考えている。 ②D P, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性や効果は高いと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。昨年の講義で、世界史と関連がやや不足していた点は、今年は史料で補った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、試験の結果からみると、上位者と下位者に2極化している。講義後インターネットを利用して学習を進める学生もいる一方で、受講者が多いために集中できなかったなどが授業の感想としてあげられ、理解不足にある歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差への配慮に加え、教室の学習環境の改善も求められる。成績下位者の学生も大半は再試験のレポートでは理解を深めていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、図表を多用した資料を活用した。おおむね内容的妥当性は認められるが、学生の歴史的知識を個別的にふまえた上で講義を進める必要はあった。一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題と日本の女性の近代化と結びつけた理解は不十分ではあった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、高校教科書の図表なども使用し、独自の資料集を作成した。学生数が多く、双方向的なやり取りが不足した点は課題である。改善策としては、質疑応答の時間を入れ、授業後には史料の確認を図書館やインターネットで行うようはたらきかける。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	女性史は範囲が広いため、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。日本の歴史を学ぶことが現在の世界の情勢と結びつけられるよう思考力を高めるのが課題である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「単位数を確保する」59.1%、「資格取得に必要である」31.8%、「友人が履修している」13.6%であった。教職必修科目であり、栄養教諭志望の学生が履修者の一定割合を占めていると思われる。2016年度から選挙権の年齢が18歳以上に引き下げられたことから、2017年度より講義計画を変更し、統治機構に関する講義を基本的人権に関する講義より先に行った。また、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。なお、欠席率は平均9.11%であった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期試験の平均点は67.73点であった。成績は後期試験をベースに、コメントの記述内容について若干加点（最高10%）することで総合評価とした。再試対象者、理想的レベル（90点以上）に達した者はいずれも0名であった（ほか、放棄者が1名）。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに3.8、「自分なりの目標を達成した」の平均値は3.6であったが、ほかの項目の平均値が3.0-3.5の間にあり、昨年度より数値にばらつきがみられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が約4割であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考ええる。よって、内容的妥当性には問題ないと考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度より出席カードとコメントカードを一体化したカードを配布・回収する方式を導入したため、授業の質評価のうち、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が4.0と昨年度より大幅に上昇した。そのほか、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.8、「評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値はともに3.6と、昨年度より数値が上昇している。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は10名、復習を全くしなかった学生は11名であり、昨年度より減少したが、依然として履修者の半数が予習・復習をしていないことになる。今後は予習・復習の必要性和具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外に学習していない理由として「時間がなかった」との記述が見られた。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習および学生の意見は特になかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、社会人としての基礎的な教養としての、基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が定着する方策を検討したいと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでおり学生からすると具体的に何を学ぶかをイメージしにくい科目である。今回の受講動機をみても「単位数を確保する」を動機とする回答が一番多く、「関心のある内容である」を動機とした回答は少なかった。このことは開講前から予想できたため、授業では毎回の授業内容に関わる様々な「確認チェック」という名のQ&Aに答える作業を行わせて彼らの関心を高めることを試みた。 ②授業によっては専門的な用語が頻出するため、毎回の授業の終りに授業のまとめ問題を行わせ、授業内容を復習させた。 ③授業の内容だけではイメージしにくいため、「差別」と「言語」に関する具体的な映像を見せ、それぞれについての考えをレポート形式で書かせた。 ④冬休み期間中に日本の学校制度と徒弟制度の意義に関する論文を読ませ、その内容に対する賛否と理由を書かせた。レポートとしてではなく本試験の問題に出し学生に答えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は5つの学科に所属する学生が受講していたが最終的な成績の平均値は80点以上であり、再試対象者は数名いたが、ほぼ全員が標準的なレベルに達したと言える。 目標別にみると、知識理解に関しては本試験の対象問題の結果を見る限り75%以上であり、学生の到達度自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の回答が平均3.5以上であった。態度については一部の学生の中にレポート問題の提出が遅れる、またはレポートの書き方が1～2行程度しか書かないといったものがみられた。原因の一つとしてレポートの論理的な書き方に慣れていないことが挙げられる。次年度の授業ではこのことを踏まえ、冒頭でレポートの基本的な書き方をレクチャーする予定である。 学生による授業評価においては、ほとんどの項目で標準以上の評価が得られた。ただテスト、レポート、提出物などの評価基準について明確でないとの回答が一部あった。学生たちには第1講の冒頭で評価基準について伝えていたのだが、十分に浸透していなかったことが上記の評価となったと思われる。次年度は第1講冒頭だけでなく、本試験前にも再度評価基準について学生たちには明確に開示していく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 学科によって異なるが、到達度自己評価の項目では学習意欲に関する達成度がまだ十分に達成されてはいなかった。こちらによる一方的な講義だけでは意欲が削がれるため、毎回の授業の度に学生たちに内容に則したQ&Aやアンケートを実施していたが、まだ改善の余地があると考えられる。その他の領域に関しては一部ばらつきはあるものの数値は高く、内容的には妥当であったとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学科によって異なるが、授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.1であった。受講人数が小人数と聞かされていた当初の予想を上回る多人数だったこと、さまざまな学科の学生が受講しているため、グループワークを行うことが難しかったことが原因として考えられる。次年度以降はグループ討論の機会を増やし学生たちに授業への参加を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は開講前は「少人数が受講する」と聞かされており、シラバスもその人数に合わせたものを作成していたが、結果として50名以上が受講することになり、授業の内容と評価を多人数に合わせて修正しなければならなくなった。第1講の授業の冒頭において授業内容の変更と評価基準について伝えていたが、こちらにも不備があり学生たちに十分に伝わっていなかった。次年度のシラバスにはすでにどのような人数でも可能な授業内容を記載しているが、授業内容と評価の基準については混乱が起こることがないように学生たちに明確に伝えていく予定である。毎回の授業終わりにまとめ問題を実施したことは、平均が80点以上の本試験の結果につながった。この方針は今後も続けていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が九割近くを占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行う小テストでは復習の成果が現れており、授業内容の理解度は悪くはなかった。到達度自己評価においては4点がでており、授業の質評価でもほぼ5であったことなどを根拠と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考えられるため、「社会人としての基礎的な教養を身につけている」としたDP1-1に沿うものであり、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと考えられる。また「他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる」と定めたDP5-1について、意思疎通が図れることにより連携・協働が可能となる意味では内容的妥当性は問題ないと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、極力全員の理解度が揃うように内容を見直したりして授業のペース配分に重点をおいた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、1年次後期開講の選択科目であり、今回の履修生は24名、受講動機は「単位数を確保する」が82%、次いで「友人が履修している」が18%であった。 授業の実施で大切にしていること、重点を置いたことは、社会（職場、家庭、地域）と自分との関係について、気付きや思考する機会があるように教材を工夫したことである。 具体的には、タイピング教材には「男女共同参画基本法」を、Excel（統計処理）の教材には、①国立女性教育会館で作成・公開されている「ミニ統計集 日本の女性と男性」および、②実際のクレジット会社と銀行の金利を使った利息計算、そして自分の住む町について調べ分析し課題を見つけ、その課題解決について企画書およびスライドを作成する演習を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	シラバス記載の行動目標について授業アンケートの際に各自で3段階評価した結果、「出来る&何とかできる」と回答した割合は以下の通りである。なお（）内は昨年度のデータである。 100%(100%,96%) 社会および家庭での情報活用について紹介できる 100%(100%,100%)：インターネットを利用する上での危険とマナーについて説明できる 100%,(93%,100%)：分かり易いリーフレットおよびスライドの作成ができる 100%(100%,100%)：適切に情報検索することができる 成績の評価は、A評価は16.6% (20.3%,10.3%)、B評価37.5%(20.0%,37.9%)、C評価33.3%(35.8%,13.8%)、D評価8.3%(20.0%,0%)、E評価4.2%(0%,0%)であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は1年次後期開講の総合人間科学に属する科目である。 1年次前期の情報処理演習基礎では、学生生活に必要な内容（学生としての自分と学び）を重点にし、後期の本情報処理演習では社会と自分との関係に重点を置いた内容にしている。 前述の学生の目標達成状況から、DP,CP,カリキュラムマップ上、内容的に妥当だと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	カリキュラムの変更に伴い、履修生が減少し、受講動機も単位数を確保するための割合が高くなり、必ずしも意欲のある学生が履修している訳ではない。 そこで、今後は履修生の減少を踏まえて、今回はそれぞれの学生の技能が向上するよう学生の技能に合わせた指導を行った。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況は良好だと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、3年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、そういった状況の中で、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、他の学科の学生から、それぞれの専門分野のことについても聞く機会を設けるなどして、互いに学び合える場も設定した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価で1割弱の学生が否定的な回答をしているが、他の学生は肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことをこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみたの内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、3年前期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容になっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP, 行動目標からみたの内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、ほとんどの学生が肯定的な回答をしているが、1割強の学生が否定的な回答をしている。受講生が想定を遥かに超える人数であったため、授業の方法など試行錯誤しながら行ったため、十分な形で授業を行うことができなかったことが原因だと思われる。大人数でも実施しやすいように、授業の方法を改善したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業の望めるよう、キャリアコンサルタントの外部講師から双方向的に学生に働きかけてもらい、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後のコメントカードや、期末レポートで測った。特に、レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。学生は概ね、基準に到達していたが、一部、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまり、社会構造と関連づけられない学生がいた。到達していない学生には社会的視野について解説して再試験を実施し、この段階で全ての学生が基準を達成した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義やDVDの鑑賞に加えて、労働法では弁護士に解説と過労死された方の遺族の話、専業主夫の体験談、本校助産教授による性的自立の解説、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、知識を得るだけでなく共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。学生からは、人数が多いことへの不満が上がっており、この点の解決は検討する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。課題は、人数が多いため、個別的な対応ができないことである。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①公衆衛生学Ⅱは国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、知識理解、思考判断が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」は95.5%で、「資格取得に必要である」7.5%で、「単位数を確保する」は3%で、「関心のある内容である」0%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を丁寧に作成し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は74.4（±10.4）点であり、再試験者は2名であった。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していなかった。 ②次年度は成績を理想的レベル（平均点80点）まで上げる工夫が必要である。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者は97.3%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必須科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、関心意欲、態度に関しやや達成された。しかしながら、管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.5で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.5であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.5で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.5であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として、特になかったが、今後は授業の進めるスピードを調整し、面白い講義にしたいです。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断の面で課題は達成できたが、関心意欲、態度の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会福祉概説	2	後期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度より担当。学科の教育内容とは異なるものの、生活者として、また将来的に栄養の専門職として人々に関わることや、更に国家試験出題範囲として試験に臨むことを意識して社会福祉、社会保障が身近なこととして理解出来るよう講義した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった		やや達成されなかった		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	一部の方だと思いますが国家試験を目指して予復讐に取り組まれていることは評価できると思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度」において自分なりに到達できたとする評価があったのは良かったと思えるが、自由記述に辛辣な意見を書かれてあるのには率直に言って心外でした。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	テキストの内容がより理解出来るよう、統計資料を用いて説明した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成されたと考える。次年度以降は、毎回の理解を確認する方法を検討する。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用生理学	1	後期	選択	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。 ②講義資料は、最終的に「講義資料配布システム」に全てアップロードし、いつでもどこでも復習できるようにした。 ③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。 ④試験問題の傾向を学生に知ってもらうため、定期試験前の講義内で小テストを行い復習への意識を高め、学習状況を学生自身が確認できるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は50名中46名で再試験者は4名であり、再試験の結果3名が再履修となった。この3名は本試験にて5科目以上不合格となり本科目の再試験を受験しなかったためである。残りの1名は再試験を受験し合格した。最終成績の平均点は71.4±8.5点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）に到達していると考えられる。標準的なレベル（概ね70点以上）は44名と受講者の半数以上おり、理想的なレベル（概ね80点以上）が17名いた。来年度は、全体として理想的なレベル（平均点が80点以上）になるよう、工夫したい。具体的には、講義資料を前もって予習してきてもらうなどを考えている。 ②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が若干名いることから、このような機会を講義の中で作っていくことを次年度の課題とする。 ③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったため、課題を与えて図書館およびインターネット等の利用を促したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.5と、学生にとって満足度が低かったように思う。身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。講義で使用したスライドおよび資料は全て本学ホームページ内にある「講義資料配布」システム上にアップロードしており、いつでもどこでもカラーの資料をダウンロードできる環境を整えていたにもかかわらず、予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることのみならず、積極的に予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、グループごとに討論する時間を設けたり、その内容を発表してもらうなど、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。 配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①生化学という科目の本質上、講義では特に論理的思考を促すことに重点を置いている。一年時の選択科目「生活の中の化学」の内容との連動性を重視して講義を進めた。「化学」という単語が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる。今年度の受験動機は、「必須科目である」95.4%、「資格取得に必要である」13.8%、次いで「単位数を確保する」6.2%であった。一方、「関心のある内容である」は、0%であった。生化学を意欲的な動機から受講する学生が非常に少ないのは例年のことで、最初から予想されたことであったが、全くいないことは予想外であった。栄養学と生化学は、もともと起源を同一である科目であること、したがって、好むと好まざるに関わらず、栄養学を志すものは、この科目に真剣に取り組む必要があることを最初の講義で説明してから、以後の講義を進めた。 ②毎年、キーワードやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布しているが、今年度はキーワード・キーワード集を大幅に改訂、増頁して配布した。講義の前後、試験前に目を通した上で、教科書やノートを使って学習に取り組むことを促している。 ③講義に用いるスライドは、前年のものを見直した上で、必要な改訂を加えて用いた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均点は62.3点、不合格者は再履修者を含めた受講者73名中23名(未受験者を含む)であり、合格率は、約68%であった。優(80点以上)は12名、秀(90点以上)は3名、そのうち1人は満点であった。昨年同様、成績が高得点と低得点の両極端に分かれる傾向多見られた。多くの学生は、予習・復習ともに0～2回しか行っていなかった。試験問題は、基礎的知識や基礎的な思考力を問う問題を併せて約9割、やや高度な知識や思考力を要する問題を併せて約1割の割合で作成した。基礎問題だけでも十分に合格点を達成できるような問題作成を心掛けた。本年度の試験問題は、比較的易しいものとなったにも関わらず合格率は決して高くなかった。学生の受講態度は、比較的まじめではあるが、論理的に考えたり、理解しようとしたりする姿勢に欠ける傾向が見られた。予習復習が少なくても、せめて受講の際、できるだけ理解した上で覚える姿勢を促していきたい。今後は、すべての学生が、せめて講義中だけでも意欲的に学習に取り組むことを促して、全員合格を目指したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPでの位置づけは専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。内容的には妥当と考えて講義を行ってきたが、平均点、合格点共に低かったので、講義中に質問や練習問題などを行い、理解度を確保することに努めたい。 ②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率は低かったが、内容の妥当性が低かったとは考えられない(講義内容は例年通りである)。学生に理解させる工夫は多いに必要であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均点は、3.3と決して満足のいくものではなかった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表および文章は、毎年見直しと改善を目指した改訂を行っているが、さらなる改善に取り組んでいく必要がある。その一方、学生にももう少し意欲的に受講してもらう必要があり、この点を以下に改善していくかを課題として、検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度は、合格率、平均点とも昨年よりは向上したものの、まだ満足できるレベルではなかった。本年度の学生の受講態度自体は、1年生、再履修者ともに全体としては、特に問題はなかった。受講意欲の向上を促す工夫が必要である。講義中または講義後に質問や発言をする学生は、例年通り少なかった。学生が理解しにくい箇所や、説明の仕方など、講義に還元できる情報を出来るだけ多く得て、それらを講義にフィードバックしていくために、学生が発言、質問する機会を増やしていく工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
病理基礎医学	1	後期	必修	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士にとって医学的知識は不可欠であるが、1年生であり、また高校で生物を履修していない学生もいることから、疾病に対しての具体的な知識や興味はまだ持ち得ていないと考えられる。病理学は病気の原因や病態を理解する上で基本となる学問であり、疾病に共通する医学用語や概念についてまず理解していくことを目標とした。その上で2年生で学ぶ「疾病診断治療学」へとつなぐために、疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、疾病に対してのイメージを持ちやすくすることに重点をおいて授業を進めた。 ②授業で使用するスライドのレジュメを準備した。 ③学生の理解度を測るために、授業の終わりに毎回確認テストを実施した。学生にとって授業での重要事項を理解することができるとともに、教える側にとっても、学生が理解できていない事項を早めに認識し、それに対処した授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績評価 本試験の成績の平均値は 82.1(±12.6)点であり、再試験対象者は 1 名であった。概ね標準的なレベル（70点以上）に達しているが、理想的レベル（80点以上）に達したものが32名（64%）いる一方で、69点以下が10名（20%）おり、学習到達レベルには開きがあると考えられる。授業中に行う確認テストなどを通して、個々の理解度に応じてサポートする工夫が必要であると考えられた。 ②授業評価アンケート結果 学習到達度の自己評価においては、全員が「自分なりの目標を達成した」と回答していたが、学生の授業評価アンケートからは、積極的に復習に取り組み知識の定着を図っている学生もいれば、忙しかったという理由で授業以外の勉強時間が少ない学生も見受けられた。予習復習など授業以外の勉強時間が少ない学生が多く、学生の勉学意欲には差がある。図書館やインターネットを利用している学生も少ないことが危惧された。今後は提出課題を与えるなど、図書館やインターネットを利用して自発的に学びを深めるための方策を検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、全員が自分なりの目標をある程度は達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。全員が、学びを深め意欲を持つことができたことと肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価および到達度自己評価は、概ね肯定的であったが、授業の中で発表する機会が少なかったと感じる学生がいるため、今後は質問応答形式を増やすなど関心を高める機会を増やしていきたい。また、忙しかったという理由で予習復習をしなかった、授業計画を立てなかった、図書館を利用しなかった、と自己評価した学生が過半数にのぼっていたため、次回の授業内容を事前に提示確認し、授業に対する準備・モチベーションを高めることを心がけたい。図書館に備えている参考図書についても適宜言及し、自発的に学びを深める調べ学習を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は専門基礎科目であり、基礎的な医学知識の修得については、成績評価および学習到達度の自己評価において概ね達成できたと考える。2年生で学ぶ「疾病診断治療学」につながる科目としての知識を得ることができるよう授業計画を練ったが、基礎的な内容であるがゆえに実際の臨床と結び付けて考えることがむずかしく、学生によっては消化不良であったものも見受けられた。また授業の復習を行っていない学生も多く、当然授業時間内だけでは理解できなかったものと思われる。授業の終わりに毎回の確認テストを行ったことで、学生が理解できていない事項を早めに認識して対処できるように努めたが、次年度に向けては、現在授業の終わりに行っている確認テストに加えて授業の初めに前回授業の復習テストを組み込んだり、提出課題を課したりするなど、学生が積極的に自己学習に取り組むような方を検討したい。また授業の中で質問応答形式の機会を増やしたりするなど、学生の意欲関心を高めるような工夫を行っていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前期で学んだ疾病診断治療学Ⅰを基に、管理栄養士として必要な臨床医学の知識および考え方を定着させることを目標とした。チーム医療を担う一員としての医療の現場を想定して、検査機器や疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、医学と食物・栄養との関連についてのイメージを持ちやすくすることに努めた。特に医学および栄養学知識を持つことがいかに大切であるかを身近な問題としてとらえてもらうために、実際に起こった社会問題やニュースなどの事例を紹介し、その原因や予防・改善するための方策について提示するなど、学生の関心を引きつけやすいように工夫した。 ②授業で使用するスライドのレジュメを準備した。 ③学生の理解度を測るために、授業の終わりに毎回確認テストを実施した。学生にとって授業での重要事項を理解することができるとともに、教える側にとっても、学生の理解度を確認し、それに対処した授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績評価 本試験の成績の平均値は78(±9)点であり、再試験対象者は0名であった。概ね標準的なレベル（70点以上）に達しており、理想的レベル（80点以上）に達したのも36名（48%）いた。さらに90点以上に達したものが6名おり、そのうちの3名は発展的な応用問題にも正解できており、日頃から意欲的に勉学に取り組み理解の定着を図っていることがうかがえた。一方で69点以下が11名（15%）おり、学習到達レベルにはなお開きがある。授業中に行う確認テストなどを通して個々の理解度に応じてサポートする工夫が必要であると考えられた。 ②授業評価アンケート結果 学習到達度の自己評価においては、ほぼ全員が「そうだと思う」と回答していたが、授業評価アンケートからは、予習復習など授業以外の勉強時間が少ない学生が多く、図書館やインターネットを利用している学生も少ないことが危惧された。今後は提出課題を与えるなど、図書館やインターネットを利用して自発的に学びを深めるための方策を検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、ほぼ全員が自分なりの目標をある程度は達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。全員が、学びを深め意欲を持つことができたと肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考ええる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は3.7点以上、到達度自己評価は3.6点以上と肯定的であり、授業は概ね理解しやすいものであったと考ええる。しかし授業の中で学生が参加する機会が少なかったと感じる学生がいるため、今後は質問応答形式を増やすなど関心を高める機会を増やしていきたい。また予習復習をしなかった、シラバスを参考にしなかった、授業計画を立てなかった、図書館を利用しなかった、と自己評価した学生が過半数にのぼっていたため、次回の授業内容を事前に提示確認し、授業に対する準備・モチベーションを高めることを心がけたい。図書館に備えている参考図書についても適宜言及し、自発的に学びを深める調べ学習を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は専門基礎科目であり、管理栄養士に求められる医学的知識の修得については、成績評価および学習到達度の自己評価において概ね達成できたと考える。今後は3年前期の「臨床基礎医学実習」へとつなげていき、実践的な知識の定着を図る予定である。修得すべき医学的知識は、生物学・化学など質・量ともに多岐にわたっているため、学生によっては消化不良であったものも見受けられたが、毎回の確認テストを行ったことで、学生が理解できていない事項を早めに認識して対処することができた。次年度に向けては、授業時間が限られてはいるが授業の初めに前回授業の復習テストを組み込んだり、提出課題を課したりするなど、学生が積極的に自己学習に取り組むような方策を検討したい。また授業の中で事例を取り上げて検討したり、質問応答形式の機会を増やしたりするなど、学生の意欲関心を深めるような工夫を行っていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①当該科目は必須科目であり、また、管理栄養士国家試験受験資格取得のためには必要の科目であるため、受講動機は「必須科目」に集中することは当然のことと考える ②食品の栄養成分や嗜好性成分、機能性成分などについて修得する科目である。成分の構造や性質は多岐に渡るため、各項目ごとに、重要な点をまとめやすい（記録しやすい）プリントを作成した ③特に、授業の復習が知識の定着に繋がることを学生に意識させるため、プリントを配布して授業を行ったが、復習を全くしていないと答えた学生が約70%であった。次年度は復習を定着させるため、翌週に小テストを取り入れることを検討したい
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績評価 最終的な成績平均値は68.1点であった。受講者数52名のうち再試対象者は22名であり、内2名が再履修対象者となった。再試験後は96.1%（50名）が標準レベルに達し、そのうち理想的レベル（80点以上）に達したものは26%（13名）であった。成績評価から、9割以上が標準レベルに達していたが、再試験対象者が多い事や再履修者が2名いることから、「知識理解」の項目をやや達成とした ②授業アンケート 学習到達度の自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目で平均値が3.9、的確に判断する力：3.7、学びを深めたい意欲を持つことができた：3.8と比較的高い結果を得たことから達成度も妥当と考える。しかしながら、「学習量の評価」では復習が0回の回答が多かったため、知識理解を深めるためにさらなる改善を行いたい					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品が有する栄養成分の特性、嗜好の特性、生体調節に関する特性性など、管理栄養士・栄養士として食品に含まれる成分の基礎的知識を修得することは必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から96.1%が標準レベルに達しており（内 理想的レベル：26%）、基礎的な教養が身についていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の項目では平均値が3.8であり、また、学生のコメントでも「わかりやすかった」と記載があったことから、授業に配布したプリントによって、重点的に理解しなければならない箇所などが明確になり、授業へ取り組みやすかったのではないかと考えられる。次年度はさらに知識を定着させるという事にも重点を置いて取り組みたい
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「専門基礎科目」に位置づけされている科目であり、「食品成分」に関する幅広い知識の習得に繋がる教科である。96.1%が標準的なレベルに達しており、概ね達成できたと考える。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目で平均値が3.9、的確に判断する力：3.7、学びを深めたい意欲を持つことができた：3.8と比較的高い結果を得たことから達成度も妥当と考える。次年度はさらに知識を定着させるという事にも重点を置いて、自宅学習時間を確保するための取り組みを試みたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
加工食品機能論	2	後期	必修	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数%にとどまり、大学教育上は決して好ましい状況ではない。授業を通じて、できるだけ受講生の学術的興味と関心を惹きつけるように務めた。 ②教科書を中心に不足分をプリントで補う形式で授業を進めた。教科書を使うと明らかに受講生の理解、特に、復習時の理解が深まるようである。 ③記憶する要点を明確に示して学習の便宜を図った。 ④管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行った。 ⑤授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に大きな悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならず、鉛と鞭の匙加減が非常に難しい科目である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の可否結果（昨年度・一昨年度との比較考察を含めて） 本試験合格者は68名（82%）であり、昨年の56名（67%）、一昨年の92名（76%）、その前年の53名（50%）を上回った。再試験該当者15名のうち、出席不足で受験できなかった者は0名、受験可能科目数4科目縛りに該当し受験できなかった者は5名で、計5名が受験できなかった（昨年は9名、一昨年は7名、その前年は15名）。再試験受験者は10名で、うち5名が合格（合格率50%）した（昨年は18名中9名で50%）。最終的に、再試末受験者5名と再試不合格者5名で、併せて10名が再履修となった（昨年は17名、一昨年は11名、その前年は28名）。再履修者（3・4年生）の8名のうち1名（4科目縛りのため再試を受験出来ず）が再々履修（昨年は3名、一昨年は1名、その前年は0名）となった。 ②成績について 本試の平均点は75.4点（昨年は65.0点）、標準偏差は19.3（昨年は23.9）であった。満点2名（昨年はゼロ）を含め秀19名22.9%（昨年は9名10.1%）、優25名30.1%（昨年は20.2%）、良19名22.9%（昨年は19.1%）、可5名6.0%（昨年は19.1%）、不可15名18.1%（昨年は31.5%）であった。 ③考察					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に因應するように工夫し（就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える）、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から観て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①例年、「話すスピードが早い」との評価が多く、十分に注意して「ゆっくり明確に話そう」心がけた。 ②昨年度の反省をもとに、今年度の新たな試みとして、食材や加工食品、加工機器の写真をスライドや動画で見せた結果、理解度が向上した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①基礎科目のなかでも「食品学」や「調理学」をベースにした応用に近い本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ②授業で取り上げる「加工食品」の種類についてももう少し幅を広げる時間が必要である。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の補講で対処したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品衛生学	2	後期	必修	いいえ	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数%にとどまり、大学教育上は好ましい状態ではない。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を惹きつけるように務めた。 ②昨年度までと同様、教科書を要領よくまとめたプリントを中心に授業を進めることによって理解を深め、記憶する要点を明確に示して学習の便宜を図った。 ③管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行っている。また、授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならず、飴と鞭の匙加減が難しい科目である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の合否結果（昨年度・一昨年度との比較考察を含めて） 本試験合格者は71名（82%）であり、昨年の49名（67%）、一昨年の86名（90%）、その前年の38名（42%）と比較し良好であった。再試験該当者16名のうち、出席不足で受験できなかった者は1名、受験可能科目数4科目縛りに該当し受験できなかった者は5名で、計6名が受験できなかった（昨年は4名）。再試験受験者は11名で、うち7名が合格（合格率64%）した（昨年は16名中10名63%、一昨年は18名中9名で50%）。最終的に、出席不足1名、再試未受験者5名と再試不合格者4名で、併せて10名が再履修となった（昨年は12名、一昨年は6名、その前年は22名）。再履修者（3・4年生）の13名のうち3名（出席不足1名、4科目縛りのため再試未受験者2名）が再々履修（昨年は4名）となった。 ②成績について 本試の平均点は74.4点（昨年は60.0点）、標準偏差は29.6（昨年は20.4）であった。満点1名（昨年はゼロ）を含め秀12名13.8%（昨年は1名1.2%）、優20名23.0%（昨年は14.8%）、良21名24.1%（昨年は30.9%）、可18名20.7%（昨年は13.6%）、不可16名18.4%（昨年は39.5%）であった。 ③考察					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し（就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える）、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から観て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	配布物が多いため、配布された順番がわからなくなる学生が観られたので、この点を改良した。具体的には、配布物に配布した順番を示す番号をつけて、配布物一覧表を、授業開始時にシラバスと併せて配布して対応した。次年度は、より分かりやすく記述した新たな教科書を用いて授業を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①基礎科目のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ②「食中毒」と「食品添加物」についてももう少し理解を深めさせるための時間が必要である。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の補講で対処したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品の官能評価・鑑別論演習	2	通年	選択	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は食品の鑑別論というテーマで栄養学科の学生にとって必要とされる食品に関する幅広い専門的分野を取り扱っていることから、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説を行うことで、わかりやすい授業運営に心がけながら授業準備を行った。また適宜、コメントカードに講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。更に適宜、難易度の高い分野や試験直前には演習問題を実施し、学習状況の確認を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は55名であったが、そのうち45名（81.8%）がA評価であった。またB評価も9名（16.4%）でC評価は1名（1.8%）、D評価は0名であった。通年で担当した2017年度（2018年度は共担だったため比較対象外）はA評価の割合が75.9%であったことから、2019年度における教育の質はかなり高いものになったと考えている。またDPの全ての項目について、平均値が3.8～3.9であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は栄養学科の専門科目としての位置づけとなる。全ての受講生が「自分なりの目標を達成した」という設問に対して、回答者全員が「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えたことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。また食品の鑑別に係る様々な事象を理解する視点や考え方を得ることができたと答えた受講生についても平均値が3.8であり、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説してきた成果が表れているものと解釈している。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については平均値が4.0～4.2と良好な結果であったが、学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。これは毎年の課題でもあるが、本演習にまで学習時間が確保できないことが考えられるが、次年度以降も事前学習、事後学習を効率的にどのように行うか、具体的に学生に対してアドバイスができればと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも専門科目としての役割を十分に達成していると思われる。自由記入欄で私語が目立ったとのコメントもあったことから、次年度からはきちんと指導をしていきたい。また毎年の課題でもあるが、受講者に対して効率的に事前学習・事後学習を行うためのアドバイスができればと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品流通・消費論	2	後期	選択	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①資格取得を目的とする教科であるため、テキストに沿った内容を中心に授業計画を立てた。当該科目は、「食」に関わる流通、マーケティングさらには食糧消費についてなど社会状況に密接した科目である。その為、現在の状況を反映させながら、授業を行うことを心がけた ②学生の受講動機は「資格取得に必要である」613.3%となっており、資格試験必修教科であることから予想に沿った結果であった ③マーケティングや流通に関する内容は、他教科で重複することがないため、当該科目で重要な点を把握できるように、また資格試験のための学習時に役立つことにも重点を置いた
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績評価 最終的な成績の平均値は84点であり、再試対象者は0名であった。受講者全員が標準レベル達しており、そのうち理想的レベルに達した者（80点以上）は75.5%（37名）であった。 ②授業アンケート結果 「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」の項目では、平均値3.8とであり、授業アンケート結果からも達成度は妥当であると考え					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。「食」に関する流通、マーケティングの取り組み、さらには食糧消費の実態について学ぶ科目であり、学生も一定の成績を収めている。また、受講動機で最も多かった「資格取得のため」の観点からみても、資格取得のためには最も基礎的かつ必要な知識であることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から受講者全員が標準レベルに達しており、理想的レベルに達した人数は昨年度より増加していた。本教科に関する基礎的な知識が身についていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価項目において、いずれも平均値が3.9、3.8であり、また昨年度の評価よりも改善していた。今後も学生に寄り添った授業を組み立てていきたい
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講者全員が標準レベル達しており、そのうち理想的レベルに達した者（80点以上）は75.5%（37名）であったことから、学生の目標達成に関しては達成できたと評価できる。さらに、「達成度自己評価」「授業の質」のアンケートにおいて、概ね3.9、3.8の評価を得られていることから妥当であると考え。資格試験は3年生後期の時期であり、履修後から資格試験の受験までに期間が空くため、資格試験合格のため早めの取り組みを促していきたい

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
解剖生理学実習	1	後期	必修	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①正常な生命活動の仕組みについての理解を深めるため、解剖生理学の講義の復習を促して生命維持に不可欠な諸器官の構造と機能について、身体活動などと組み合わせる可能な限り身近な題材を用いて実習を行うようにした。 ②実習レポートは実習終了後一週間以内に提出をさせ、提出後1週間以内にコメントを付して返却した。実習内容を忘れないうちにまとめることと、早い段階でのレポート返却により、学生がコメントを確認することで復習の機会が自然とできることを意図した。 ③骨及び筋の名称について小テストを行うことで、骨格系の知識の定着を図った。 ④1年次の実習科目であるので、コミュニケーションを円滑に行えるよう、実習の初めの4回は共同作業を行う紙製の骨格標本を8～10名で1体作成するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価にて「職業選択の参考になった」について「少しそうでないと思う」との回答が10%あったが、そのほかの項目に関して「まあまあそうだと思う」という肯定的な意見が95%以上を占めている。 加えて、レポートは総じて大変良くできており、積極的に取り組んだ跡がうかがえた。 図書館等の利用が非常に少ないが、実習時間中にスマートフォンなどを用いてインターネットを利用した情報検索を許可しているため、このような結果になったと思われる。 以上のことから、この科目で意図した教育目標はほぼ達成できたと考えられ、授業態度、レポート提出状況からも、この科目に多くの学生が主体的にかかわることがうかがわれる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「専門基礎分野」になり、必修科目である。実習で行った内容は解剖生理学の講義で学習したメカニズムを実際の自分たちの体で体験するという知識定着の役割も担っている。そのため、管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。また、学生の成績も非常に良かったことから内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容妥当性 「到達度自己評価」及び、実習の成績からみても学生は進んで熱心に取り組んでいたと評価したことから、目標をほぼ達成でき、内容は妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」という項目について「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答が100%を占め、そのほかの項目も95%以上の学生が肯定的な判断を下している。概ね、問題はなかったと判断できる。座学の解剖生理学が前期で終わった段階でこの実習を行っているが、前期の座学の復習という形で知識の定着ができたと考えている。 図書館にて本で調べるということがほとんどできていないことについても、実習中にインターネットを活用して調べることを行っているため、大きな問題はないと考えている。まずは教科書を読むことを習慣づけることから注意を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。 この科目は①人体を構成する主な骨と筋肉の名称を覚えること、②泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようになること、③実験結果のまとめ、グラフ化、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を身につけることを目標に行ってきた。最終的な到達目標は、①～③を初学者に説明できるようになるという点に置いた。学生による授業評価とレポートの採点結果、また小テストの結果から見て、これらの到達目標は、ほぼ達成されたものと判断できる。 今後の課題としては、インターネットを用いて調べる際に、正しい情報を選び取る力を身につけてもらえるような工夫をしていきたいと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学実験	1	後期	必修	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①食品学Ⅰで修得した知識を、実験を通して再確認ならびに定着させることに重点を置いた。実験操作の基礎的方法を再確認する実験項目を実施後に、食品成分に関する実験に取り組んだ。これによって、知識だけでなく実験に必要な基本的操作方法の定着に繋がるものと考えられる ②学生の受講動機は「資格取得に必要である」「単位数の確保」で100%を占めた。管理栄養士、栄養士の免許取得には欠かすことのできない科目であるため、これらの回答率は妥当なものである
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績評価 受講者50名のうち再試対象者は3名であったが、再試験で全員合格し、最終的な平均値は77点であった。全員が標準レベルに達し、そのうち理想的なレベルに達した者（80点以上）は21名（42%）であった。 ②アンケート評価 平均値は、「知識の修得：3.9」「判断力：3.7」「意欲：3.8」であたった。事前事後学習の回数では、「0回」と回答する学生が多いものの、4回以上の回答をしている学生も20名おり、レポート課題が復習に繋がっていると考えられる。しかしながら「0回」の学生、昨年度よりは減少したものの依然として12名ほど回答している。さらなる課題のあり方を検討していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品学Ⅰで修得した知識を、実習を通して定着させ、さらには技術の修得も行うことができる科目であり、学生も一定の成績を収めているため、内容的にも妥当であると考ええる。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から全員が標準レベルに達しており、専門的な知識や技術を修得できたと判断される。また、4～5名のグループで実習を行うことで、協調性やコミュニケーションなど、社会人としての基礎的な教養も身につくことから、内容的に妥当であったと考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の進め方 授業の実施にあたって、実験項目ごとに反応の仕組みについて講義を行い、操作方法については器具をつかってのデモンストレーションなども取り入れて、学生自身で流れを頭なの中で整理して取り組めるよう心掛けた。また、授業を進めて行く上で、濃度計算を苦手としている学生が非常に多かったため、練習問題を作成し解説する授業も取り入れた。また、最後の2回の実験では、最低限の注意事項に留め、教科書の流れを頭に入れて学生自ら実験を進め、出された結果からの説明を行うということを取り入れた。以上のように、学生の状況を踏まえて、細かな指導を行いながら授業を進めた。 ②提出物の評価 レポートをしっかりと記載できていない学生が見受けられたため、レポートについての説明も数回取り入れた。このことから、学生の提出物に対する評価も高かったように思われる ③授業の質評価 「説明は理解しやすいものであった」の評価が3.9と高い結果をしめていたことから、今年度取り入れていたレポートに対する対応も継続する。また実験の最後には実験の流れを頭に入れ、自分で考え自ら行動するという事が身についてきたということを学生自身に実感できるよ
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度は成績評価ならびに学生のアンケート評価から、目標は達成されたと考えている。今年度取り入れていたレポートに対する解説や苦手な計算に対する講義は引き続き継続する。今年度、授業の最終回に取り入れた班員で能動的に実験に取り組むという回を来年度は増やしていきたいと。また、各班の実験結果は教員が「確認→説明→不明な点の確認」という形で行っているが、実験結果をもとにわかったことなどを学生に説明してもらおうという機会を取り入れたいと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康情報処理実習	2	後期	選択	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次後期管理栄養士必修の実習科目で履修生は85名である。受講動機は必須科目である90%、資格取得に必要である10%であった。 授業の実施にあたり大切にすることは、卒業後の利活用を想定し、卒業にも役立つテキスト（化学同人の「わかる統計学 健康・栄養を学ぶために」松村康弘・浅川雅美著）を選定し、データを入力することで推測統計が可能となるExcel教材を準備し、栄養調査・分析に必要な統計処理の課題を設定したことである。 昨年2017年度より、学生の学力に合わせ、また2年後期開講の時間割上、授業外で予習・復習する時間のない状況が続くため、推測統計の割合を減らし、記述統計の割合を多くし、テキストの例題を時間をかけて行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価割合は次の通りである。なお、（）内は2018年度、2017年度の割合である。 A：12%(7%,4%) B：14%(7%,19%) C：25%(28%,27%) D：31%(26%,30%) E：19%(8%,12%) 授業評価の到達度自己評価は以下の通りである。 1と2 ：4と5 7%(3%,14%,26%)：31%(25%,28%) (2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた 6%(3%,20%,31%)：25%(20%,5%) (4) 自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た 8%(1%,19%,36%)：25%(26%,21%) (5) 自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた 6%(3%16%,32%)：25%(32%,4%) (7) 自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた 5%(4%18%,23%)：28%(30%,14%) (8) コミュニケーション力や表現力を高めることができた。 本科目に関連するDPの達成度自己評価において、成績評価AとBを合わせた割合が26%であることからDPの達成目標はやや達成されたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	上記到達度自己評価の結果より、DPにおいて内容的に妥当と考える。 加えて本科目は専門教育分野に属し、CPは、「臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を習得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける『臨地実習』を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う」となっており、本授業の内容は妥当であると考えている。 一方、本科目のシラバスに記載の行動目標4項目について学生の自己評価では、「できる」、「メモやテキストを調べればできる」、「全くできない」の3段階評価で「全くできない」と回答した学生の割合は以下の通りであった。 5 % (12%,4%) (1) アンケート調査の一連の流れを説明できる 9% (12%,8%) (2) データの種類について説明できる 25%(20%,23%) (3) 仮説検定について説明できる
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	自由記述に記載した7名すべてが「早すぎて、理解できない」というものであった。成績評価でE評価の学生は8名であり、本試験の中には小学生で学ぶ割合を使った応用問題が含まれることから、問題文から簡単な数式を導く能力の段階で躓いていると考えられる。改善策として、基礎的な数学および記述統計学について学生の能力に合わせて教える授業を1年次前期に開講することが考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	以上の分析結果よりおおむね目標は達成したと考える。 しかしながら、前述したように（２）の成績評価および到達度自己評価の割合から、理解度の高い学生とそうでない学生の格差が広がっている。 近年の管理栄養士国家試験問題において、記述統計の知識を問う問題や、問題文から数式を立てる問題が出題されるようになってきたこと、また医療福祉分野においても人工知能が利用されるようになり、人工知能で使われる手法の基本は統計学であることも踏まえて、1年次に記述統計学を学ぶ科目の開講が課題だと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用調理学実習	1	後期	選択	はい	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この科目は基本的な調理ができることを前提とし、さらに応用力を養う実習であるため、まずは学生自身が調理操作を行い、実践力を身につけることが最も重要であると考えた。そのため学生が自ら、多種のメニューを作れるよう師範を短縮し、講義内容はテキストでの説明とポイントに絞り、自ら考え作ることができるように促した。 ②応用調理学ではあるが、1年前期に調理科学実験の講義が無いため、学生はただ料理を作ることしか知らず、それがなぜかという科学的根拠を知る機会がない。そのため、調理科学的な内容を含み、また今後の大量調理などの実習も見据え、食品の重量や盛付重量の把握、調味料の計算なども実習内に取り入れた。 ③1年前期との違いは、担当した献立のみを作成するのではなく、作業工程全体の流れを把握し全部の献立が作れるよう指示・指導に努めた。 ④事前に予習をさせるため、前週にキーワードやポイントを中心とした予習課題を配布し、実習当日の始めに提出させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績平均値は85.9±17.2点と標準レベルであった。この実習は実習後のレポート得点を加味するため、レポートの内容により、評価が左右された。理想レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していたのは51名中39名であった。（51名中1名は退学）。このうち5名は不可だったため再試となった。到達度自己評価の平均値と中央値を見ると、「自分なりの目標に達した」が4.1、4.0点、「知識を得た」が4.2、4.0点、「課題を検討する力を得た」が4.2、4.0点、「的確に判断する力を得た」は4.0、4.0点、「学びを深める意欲」4.2、4.0点、「技術を身につけた」が4.2、4.0点であった。授業の質の評価では、「説明は理解しやすいものだった」が4.2、4.0点との評価であった。以上のことより、1年前期の基礎調理から一貫して調理技術の習得に力を入れた結果、調理技術が向上し、自信となり、今後の学習意欲につながったことと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。しかし、入学当初の調理技術レベルの差を1年前期の基礎調理学実習と1年後期の応用調理学実習で埋めること、また、個人の調理技術レベルの差をなくす努力をしたい。この課題に応えるように技術テストを行うなどの工夫をし、学生も標準の調理技術を身につけていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 コメントや学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高く、自己啓発や研鑽しようとする態度が伺われた。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.1±4.0点であった。これは1人1人が献立作成を行い、グループワークにより班ごとのオリジナル献立を考え、デモンストレーションおよびブレゼンを行った結果であると考えられる。 成績不良の学生に対して、再試を行い面接方式により質問を行った。理解が不十分である内容に関しては、教示するなどして個別に対応を行った。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ①初回は1年次の基礎調理学実習の復習を踏まえた実習内容にする、②15週の間でアンケートを取り、学生の要望や困っていることなどを早期に確認する、③学生の理解度を把握するために小テストや実技テストを行い、自主的に学習を心がけるよう指導する。 学生のレベルに応じた個別の対応により、技術指導や学習指導を心がけ、学習意欲を高めることが重要であると感じられた。また、1年時の基礎専門科目であるため、できないのでなくできるように指導し、成功体験を得ることで留年や退学を招かないよう、未然に防止することを努めていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機に対する回答で、「必修科目である」が97.8%とほとんどの学生が必修であることを理解しているにもかかわらず、「資格取得に必要である」ことを自覚しているのは11.1%であった。また、「関心のある内容である」と答えたものは皆無（0%）であった。栄養学の基礎的知識が、資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士の実践の場でも役に立つ重要事項であることを毎年、事あるごとに伝えているが、なかなか浸透しない。基礎栄養を実践の場でどのように活かすかできるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。 ②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行った。 ③後期の中頃に確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ④授業で使用するパワーポイントの資料は、常に修正し、よりわかりやすい内容となるようにしている。 ⑤授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約5年分とその解説を配付し、予習復習の助けとなるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値(100点満点)は、Aクラス73.1点(±7.7)、Bクラス72.0点(±8.5)、A・Bクラス合同で72.5点(±8.0)であった。80点以上のはAクラス24.0%、Bクラス19.2%、70点～79点がAクラス40.0%、Bクラス34.6%、60点～69点がAクラス36.0%、Bクラス34.6%であった。問題が異なるので単純に比較はできないが、昨年度と比べると、A、Bクラス合同の平均点は約4点低下し、80点以上の成績優秀者の割合も昨年度に比べて減少していた（53%→22%）が、昨年の問題が少しやさしかった面もあり、昨年以前の例年の成績と比べると今年の成績はほぼ同じレベルである。ただ、昨年は授業の終わりになるべく学生に練習問題を解かせるようにしていたが、今年は時間的な制約のため十分にできなかったことが成績低下に影響している可能性はある。講義の時間を少し短縮してでも、練習問題の時間をとるようにしたほうが学習効果上がるのかもしれない。本試験の不合格者(60点未満)は、A、Bクラス全体で2名（4%）で、昨年度（6名；8%）より減少していた。再試験は2名が受験し、2名とも合格した。授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、項目(2)の「知識の確認・習得」、(4)「専門分野の課題を検討する力の習得」、(5)「専門分野の的確な判断力の習得」および(6)の「専門分野について学ぶ意欲」については、3.8点～3.7点と比較的高い評価であったこと、また、項目(8)、(9)を除けば各項目とも平均点が昨年とほぼ同じレベルであったので、概ね教育目標を達成できていると考えている。。例年得点の低い（8）コミュニケーション力・表現力の項目は、昨年度は3.4と比較的高かったが、今年度は再び例年と同じレベルになった。授業の終わりに練習問題に口頭で答えさせるようにすることは時間的な制約もあるので、な					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」であり、卒業必修及び管理栄養士国家試験受験資格取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えているが、「3. 授業準備について」でも述べたように、資格取得に必要であると答えた学生や、この科目に関心がある学生がまだ少数な点は、今後の課題である。ただ、期末試験などの成績においても良好な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 本科目のDPである「知識理解」(DP1)および「思考判断」(DP2)の成績は例年通りおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。 以上より、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」において、項目（1）の「明解な評価基準」と項目（2）の「明確な学習の範囲と課題」が昨年より高得点（3.4、3.4→3.6、3.5）であったが、項目（4）「授業中の学生の参加・発表」は昨年より0.2ポイント下がり、項目（5）「学生からの質問の受付とそれに対する回答」は、昨年と同じであった。授業の最後に練習問題を出して学生に解かせ、答えさせ、質問させる時間が昨年に比べると短かったことがこの結果につながったものと思われる。。項目（3）の「説明の理解しやすさ」が、昨年より0.2上がっていた（3.2→3.4）が、例年指摘される早口になる点などを改善し、より分かりやすい説明を心掛けたことがある程度実を結んだものと思われる。以上、十分な高評価とは言えないが、学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成できたのではないかとと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎栄養学の基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。これからは、基礎的知識を実践の場に活かせるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら講義を進めていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学概説	1	後期	必修	はい	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①栄養学概説は、栄養学科1年次に2018年度から新規開講された科目であり、2年次からの専門基礎および専門科目を学ぶ前の導入教育の意味も含む卒業および管理栄養士受験資格必修の科目である。よって受講動機は「必修科目である」が98%であることは当然の回答である。「関心のある内容である」が2%と低いことに関しては、昨年度の低い結果を受けて、今年度は分野毎に確認試験を分けて行うなどの改善を図ったが、今年度もまた学生の関心をひきつけるような講義の実施が出来なかったことも推察されるため、さらに講義内容の見直しも図りつつ、この科目を2年次から学ぶ専門基礎および専門科目へ繋ぐことが出来るように、学生の学修レベルにも配慮しながら、学生に関心をもって講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。 ②栄養学概説は、「日本食品標準成分表」に関する講義と、「日本人の食事摂取基準」に関する講義の二本立ての科目である。3人の教員によるオムニバス講義であるが、3教員ともスライド資料を配付し、その資料には、ポイントが理解できるようにする、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。さらに教員は食品成分表や食事摂取基準などの講習会に参加し、最新の情報を学生たちに提供できるように努力している。「食事摂取基準」の講義では、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。今年度も学生からの意見に「難しかっ
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果はA,Bクラス55名の受講生中、A(秀)が6名(10.9%)で、B(優)が30.9%であり、C(良)が21.8%であった、D(可)も21.8%と高く、不可の学生が14.5%であった。受講生の約80%が標準的レベルに至っており、講義内容や試験方法はこのままで実施していく。また学習到達度の自己評価においては、講義への関心の高さがうかがえ、この科目を「的確に判断する力を得ることができた」、「学びを深めたいという意欲を持つことができた」との回答が多かった。これらの評価結果から今年度のこの科目のDPの達成は「やや達成された」と回答する。学習量の評価では、約65%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学習時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。またこれからも小テストを実施し、この返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の中の応用栄養学の項目の1つに位置している。また、2年次からの専門基礎および専門科目へのつなぎの科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が98%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度からは、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約65%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は57%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だという思いが学生たちにあると考えられる。また、講義の初回にシラバスを配付し、一緒に目を通していているため、その後にシラバスを参考にする必要がなくなったことも考えられる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す予定である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、2年次の専門基礎および専門科目へのつなぎにあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価から、概ね全てのDPを達成できたものとする。今後も学生の学修レベルの把握を行いながら講義を展開していくことを考える。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅱ	2	後期	必修	はい	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学Ⅱは、応用栄養学Ⅰに続く科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が94.6%は当然の回答であり、「資格取得に必要である」が8.1%、「関心のある内容である」が6.2%と低いことに関しては、応用栄養学Ⅰ（2年後期）の講義を学生の関心を引き付けるような具体的な内容で実施し、学生のモチベーションを保ちつつ、応用栄養学Ⅱの講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある、これは毎年度の課題であるが、難しいのも現実である。 ②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了時に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、講義内容に興味を持つことが出来た等意見が出てきている。小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は75名の受講生中、A(秀)が8%、B(優)が22.7%と多く、C(良)32%と良が一番多かった、D(可)が21.3%で、不可の学生は12名(16%)であった。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みや、レポート以外の提出物にて評価をおこなった。受講生多くが標準的レベルに達しているが、理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達している学生は8%と低かった。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、優の学生も22.7%と多いため、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、62%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後はもっと予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要性がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が94.6%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、62%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は77%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だというのが学生たちにあると考えられる。ただし、シラバスを参考にした学生の33%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。初回にシラバスを印刷したものを配布しているので、これに講義前には目を通すことを促したい。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。3年後期には本科目の実習科目がスタートする。この実習科目において、さらに復習を重ね、その実習の到達目標達成に効果が出るよう努力していく。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	田路 千尋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講の動機は、「必須科目である」95.8%、「資格取得に必要である」5.6%が大半を占める本科目は、資格取得における必須科目である。できるだけ各テーマごとに復習問題を出し、関心を引き付けるように努めていたが、「関心がある内容である」の割合が低く、今後の課題である。 ②テーマごとに確認問題を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ③本科目は、専門分野であるために学生の興味の有無が分かれると思われる。今後も学生の興味を引き付ける内容となるよう努めていきたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的には成績の平均値は77（±12）点であり、再試験対象者は、0名であった。全員が標準レベルに達したが、点数にばらつきがみられ、理解度の差が生じた。 目標別にみると、知識理解と思考判断に関する問題はどちらも90%以上であった。 学生による授業評価に関しては、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等」の項目の回答もほぼ全員から得られており、目標は概ね達成できたと考えます。 「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低く、課題を出すなど次年度にむけて検討したい。そのことにより、図書館等を利用割合も増加することを期待する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、必須専門科目である。準備性の項で述べたように確認テストを実施し、学生の理解度を把握しながら授業を進めている。2回生から履修する科目のため、教科書に記載の内容を習得することに加え、この科目を学ぶ重要性を理解させることもまた必須である。そこで、国家試験に直接関わる内容であるという意識喚起を目的として、国家試験において出題頻度が高い用語や知識についてはその旨を強調するような工夫をし、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から標準偏差にバラツキは見られたものの、知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、授業の予復習時間が想定より少なかったことは、反省点である。次年度にむけては、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、課題を出し、検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、「内容についていけない」というものがあった。このことは、学生の理解力に差があることが考えられ、今後の課題である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	必須科目である本科目は、学生による授業評価に関し、自分なりの目標を達成し、知識を確認、修正したり、新たに得ることができ、自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等の回答もほぼ全員から得られており、教育目標は概ね達成できたと考ええる。 次年度に向けての検討項目としては、「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低いことから、毎回テーマごとのねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、予習復習課題を提示するようにすることを加えていきたい。 また、学年により意欲的に取り組む傾向に違いがあると考ええるため、その学年に合った授業展開を検討していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養管理学	2	後期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年後期になって、実践が問われる専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な臨床的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。また、昨年度に続き、授業の最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。授業で使用するスライドのレジュメについては、昨年度のものに修正を加え、よりわかりやすい内容とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本試験受験者の成績の平均値は79.0 (±9.3) であり、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは40%を超えた。学生の授業評価においては、殆どの回答者が自分なりの目標を達成し(97.2%)、新たな知識を得ることができた(98.6%)、学びを深めたいと意欲を持つことができた(97.2%)と回答している。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業展開を心がける。 以上から、教育目標は達成されたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門分野科目」であり、必修科目である。国家試験の臨床栄養学分野で多く出題される内容であり、重要性は学生に十分に伝えられている。定期試験にて一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から、知識理解、思考判断、意欲関心、態度に関する達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習到達度の自己評価において、回答者の約9割が「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」、と回答している。また、授業の質の評価において、「提出物などの評価基準」（平均値:3.4点）を含めた5つの各項目について、約9割の回答者から肯定的な回答が得られた。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けて、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう授業の進め方を検討していきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門分野科目にあたる本科目の位置づけから、臨床栄養学的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。授業の最後に復習・確認の小テストを行うことより、学生が検討を加える時間できた。次年度に向け、本年度の評価を踏まえ、授業展開や教材の内容等を検討し、授業改善を図りたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理論	2	後期	選択	はい	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	給食提供現場の経営管理分野に関しての科目である。経営学の科目内容の約50%を占めるため、授業初回に本講義の趣旨と授業計画の説明を行っている。学習の準備性の点では、専門分野の科目としてはなじみにくい内容であることから、例年通り復習に重点を置かせている。 また、実務に直結する内容というより、国家試験に必要な知識が多く含まれる科目のため、その点を重点的に説明するようにしている。さらに、本科目の中で、卒業後の就職先となり得る「特定給食施設各種の給食経営の特性」と「給食施設のマネジメント」を説明しており、学生自身の進路選択の参考となる情報提供も意識した講義内容としている。さらに、平成30年度の診療報酬や介護報酬の同時改定に関しても重点的に解説をし、医療と福祉の各領域の管理栄養士間の連携の重要性が増大している社会的背景への理解を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本試験の成績平均値は65.1±13.2（2018年度67.0±12.3点）であり、再試験対象者は27/86名；31.4 %（2017年度23/77名；29.9%）で昨年度より僅かに増加した。再試験対象者の本試験平均得点は47.0±8.6点（2018年度49.2点）であり、全体平均得点（65.1±13.2点）と比較すると昨年同様に約20点もの差が確認された。試験の難易度は例年と同レベル（概ね70点以上の得点を理想レベルとした）であったことから、再試験対象者の標準レベルの到達度は極めて低いと考えられる。本科目は例年試験形式に論述式を多く取り入れており、暗記だけでは対応できない試験形式への準備不足および勉強への取り組みの甘さが考えられる。試験はDP1（知識理解）の評価方法である。学生の到達度自己評価を見ると、「自分なりの目標を達成した」に関して『かなりそうだと思う、わりと思う』と評価する学生は半数強であった（中央値4.0：昨年度中央値4.0）、また、また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」ことに関する評価は昨年同様に高かった（中央値4.0：昨年度中央値4.0）。「学習量の評価」からは、例年同様、予習・復習にかかる時間数が圧倒的に不足している状況であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	臨地実習Ⅰ（給食の運営）の実習先となる各種特定給食施設の給食経営管理の内容について解説する科目でもあるため、履修学生は「資格取得に必須」の科目という認識を持っている。また、「職業選択の参考になった」と評価する学生が多いことから、「専門応用科目」としての責務を果たしていると考える。前述した「経営学」の部分も給食施設の経営管理として解説しているため、「新たな知識の確認」という点では一定の評価が得られていると思われる。よって、内容的には妥当であると思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「意見をまとめる」「話しあう」「発表する」等の学生参加型の講義方式にすることは難しく、授業の質評価の他項目より評価がわずかに低かった。科目内容の性格上、網羅すべき内容が多く、それらが国家試験に直結する内容であるため、現在の講義方法を変更することは難しい。学習量の評価を見ると、予習・復習に取り組む者がきわめて少ないが、自由記述欄から「他科目・実習の課題で時間が取れない」との意見があり（例年同様）、これが原因であることが想定される。特に3年後期は多くの実習が配当されているため、予習・復習の時間確保に関しては苦慮するところである。これは、学科全体の問題であると思う。一方で、「授業内容で十分であった」との意見も散見されるため、授業の質に対しての一定の評価が得られていることが裏付けられると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	給食経営管理分野の講義科目として、学内実習・臨地実習に向けての知識を教授する位置づけの科目である。到達度自己評価の結果からは、給食施設における管理栄養士の業務内容への一定の理解は得られており、職業選択の参考となる講義内容であった点は評価に値すると考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学実習	2	後期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年～2年生で学んだ基礎栄養学の知識を実際の栄養指導・栄養教育にどのように活かすかを学ぶ実習である。これまでは、臨床栄養実習とのオムニバス授業であったが、今年度より独立した実習として実施し、開講時期も従来の3年生前期から、基礎栄養学の講義が終了した2年生後期に実施することになった。 ②受講動機に対する回答で、「必修科目である」が98.5%とほとんどの学生が必修であることを理解しているにもかかわらず、「資格取得に必要である」ことを自覚しているのはわずか1.5%であった。また、「関心のある内容である」と答えたものは皆無（0%）であった。栄養学の基礎知識・技術が、資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士の実践の場でも役に立つ重要事項であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。 ③授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行った。 ④学生の復習への意識を高め、学んだことを定着させるため、毎回のその日の実習に関する課題を与え、レポートとして提出させた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今回の成績評価は、「知識・理解」および「思考・判断」を評価した筆記試験（65%）およびレポート（20%）、「関心・意欲」・「態度」・「技術・表現」を評価したその他（15%）とした。 ②実習成績の平均点は全体で84.8点±6.5で、不合格になったものはいなかった。理想的レベル（80点以上）に達したものは、全体で60名（80%）であった。 ③学生の授業評価アンケートの"到達度自己評価"において、すべての項目で3.6以上であった。特に項目（7）「専門分野で必要となる技術の習得」が3.7と比較的高得点であった。すべての項目でほぼ全員が、「まあまあそうだと思う」以上の回答をしているので、この点からも教育目標は達成されたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の”専門分野”に属する科目であり、必修である。国家試験の問題に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。今回はレポートと期末筆記試験の両方で成績を評価したが、全員が良好な成績を収めていることから、本実習の目標である「栄養学の基礎的知識を栄養指導・栄養教育の現場に活かす」ということは、おおむね達成できていると考える。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 学生の成績はレポート・筆記試験共に良好であることから、内容的には妥当であったと考える。 以上より、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①”授業の質評価”において、すべての項目で3.6以上であった。特に項目(1)「テスト、レポートなどの評価基準の明確さ」および項目(2)「期間内に行うべき学習の範囲や課題の明確さ」が3.7と比較的高評価であった。学生の成績もかなり良好であったこと、また、自由記述においてもポジティブな記述が多かったことより、授業の目標は達成できたと考えている。次年度に向けて、さらに知識を深め、技術を身につけることのできる実習を心掛けるとともに、学生がより積極的に実習に参加できるよう改善していきたい。 ②学生の自由記述に、「携帯、話をしている人が多かった」という感想もあったので、実習中の学生の行動・態度についても、十分注意し、不適切であった場合には注意するようにしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、栄養学の基礎的な知識・技術の形成については概ね達成できたと考える。また、基礎的な思考判断の面でもある程度、課題を達成できたと思われる。 ②今回の実習では、実習に関する重要事項を栄養指導などの現場での応用と関連付けながら設問として答えさせるようにした。これによって、実習のポイントがより明確になり、実習の目標達成にもつながるものと考えられる。今後とも、「実習のねらいを設問として学生に考えさせる」、「実習内容を振り返るための復習課題を提示する」などの方策により、学生がより主体的に実習に取り組み、実習で得た知識・技術の定着ができるようにしていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士・栄養士の要件科目であり、3年前期・給食経営管理実習Ⅱ（以降、実習Ⅱとする）の基礎となる科目である。履修動機としては「必修科目である」が98.6%、「資格取得に必要」が16.7%であった。卒業必修、管理栄養士・栄養士資格必修選択科目、また臨地実習Ⅰの要件科目であるため、前述のような結果となった。 ②特定給食施設を想定した生産管理、衛生管理、品質管理、原価管理の計画・実施を、各管理内容に必要な帳票整理を通して評価・改善を行わせる内容である。学生の自主学習が実習進捗度および給食管理に関する習熟度に影響を及ぼすため、2年前期・給食計画論で必要な知識の習得に努め、本実習で実践する流れを作っている。学生には計画段階から考えさせ、実習を通して『人・物・時間』をマネジメントする訓練を行わせている。 ③実習の性格上、時間外の作業が多いことについて、あらかじめ時間外の活動が必要となる点に関してオリエンテーションで十分に説明を行った。実習内容と趣旨の説明を『実習担当2週間前』、『実習担当1週間前』、『実習担当前日』、『実習担当当日』と時系列で詳細に行い、理解を促した。授業時間外の活動を省くことは、実習を運営する上で、困難である。本実習で修得した経営管理の知識を、実習Ⅱで実践・運用していく。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合成績の平均点は81.0±9.9（2018年度73.3±14.4点）で、再試対象者は9/75名（12%；2018年度10/89名14.5%）であり、同レベルの内容で行ったにもかかわらず、3年連続してより再試対象者の減少が認められた。再試験対象者の本試験平均得点は56.0±4.1点（2018年度；52.3±6.5点）であり、本試験合格者の平均得点（84.0±4.0；2018年度84.4±4.4点）と比較すると約30点の差があり、極めてDP1（知識理解）に関する到達度が低い者であるが、昨年度よりも若干得点の上昇がみられた。DP2～5に関しては、実習を通しての実務や課題内容で判断し、標準レベルへ到達したと思われる。到達度自己評価は全ての項目において高い評価となっており、特に「目標達成」および「事象を理解する力」に対しての到達度自己評価は昨年度より高い結果となった。この結果より、広い視野で物事を見ることが可能となり、目標達成への自信につながったと考えられる。学習量の評価では約70%の者が30分以上の予習をした上で実習に参加していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本実習は専門科目、臨地実習への準備科目としての位置づけである。専門的知識、技能ともに実習の中で網羅されており、DP、CP、カリキュラムマップからみて、内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価より、全ての項目で昨年度同様に高い評価（平均3.9, 中央値4.0）を得ており、学科平均以上（本科目全項目3.7～4.0）であった。本実習は、課題も多く、時間外に予習し、準備する内容も多い。そのため、実習一連の流れを十分に理解し、学生自身が自主的に取り組むことが必須である。そのため昨年度に引き続き、特にオリエンテーションの内容を充実させ、さらに「教員が指示する」のではなく、「学生同士で考えて、検討し実施する」ことに重きを置いた。自主性という点では予習・復習の取り組みの状況を見る限り、概ね良好な状況であったことが窺われる。一方で、昨年まではスタッフ側のマンパワー不足が顕著であったが、新たに担当いただくこととなった助手の尽力により、理想とする水準に近い学生指導が可能となった。必ずしも専門職を目指すわけではない学生が増加する中で、有能な助手の存在は、学生教育の観点からも非常に重要であると実感した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生よっての取り組みの程度に差が見られ、消極的な取り組み姿勢の学生が増加している現状から、実習初回のオリエンテーションで詳細に実習の趣旨とスケジュールの説明を行っていききたい。また、前期科目である「給食計画論」からの連続的な実習であることを、今後さらに意識していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
調理師論	1	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士国家試験関連科目とは異なり、受講動機は、「関心のある内容である」について比較的高い数値を示した。 ②本科目は、今年度、初めて開講した科目である。開講した目的は、「学生の管理栄養士就職試験に役立つ調理師資格取得を支援する」ことと、「高学年で学ぶ管理栄養士専門科目全般を包括する初歩的内容であり、今後の学習を円滑に進めるため基礎を養う」の2点である。 ③新年度は、試みとして、調理師試験の過去問題集をテキストとして、授業を実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の受講者の状況 登録された受講者数18名に対して、7名の学生が受講した。夏期講習ということがあり、進路に対する意識、および、学習意欲が高い受講生であった。 ②評価結果 受験者7名全員が本試で合格した。成績は、平均点が94.4点（昨年は83.0点）、受講者7名全員が秀（昨年は秀55名、優4名）と、極めて優れた結果であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門選択」であり、かつ、夏期集中で実施するため、もともと受講生の学習意欲が高く、質の高い成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から観て「知識理解」について十分満足いける結果が得られた。成績の質が高いことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年は試験問題集をテキストとして用いたが、今年は受験参考書を用いた。昨年と比べ、配布物が激減し、教科書に沿った授業を行うことができたせいか、受講生の理解度が上がった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①本科目の開講目的である、調理師受験のための知識養成、受験の動機づけ、今後の管理栄養士専門科目受講のための基礎的知識の形成については、概ね達成できた。 ②テキストをすべて網羅しようとして授業を行ったため、底の浅い内容となった点が反省点であり、次年度は、重要なポイントに的を絞り込んだ内容を提供したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職をとる学生が始めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していた。 ③前年のこの講義では、「『教育原理』なのに、教育のこととは関係ないことを説明されて、あまり理解できませんでした。」という意見があったので、人間理解が教育の基本原理だというような「常識」を丁寧に説明した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成されなかった	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成されなかった
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験成績の平均は50.96であり、全体の平均点62.47に比して11.51ポイント低かった。全体の平均も昨年よりほぼ10ポイント下がっている ので、平均以上に下がっている。故に他学科に比して非常に成績はよくなかった。定期試験の合格者は13人中5人に過ぎず、半数以上が不合格であった。理想的と言える80点以上の学生は1名しかいなかった。 学生の自己評価は、各項目に於いて「まったくそうでない」「少しそうでない」というところに若干いるが、他学科と比して少ないのはなぜだろう。よく勉強した実感を持っているのだろうか。到達度の平均値は各項目2.9～3.6とであり、まずまずというところか。 授業に対する評価は3.2～3.5であり、昨年より少しはよくなったのかもしれない。おそらく、私が血管運動性鼻炎が軽かったために、マスクをしなくてもすんだことが理由かもしれない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	読解力や理解力を要する科目なのでだいぶ丁寧に説明したつもりである。質問も受け付けやすいように工夫したつもりであるが、さらに改良を加えたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	もう少し読解力を獲得できるようにする技法を考えたい。